

6 障害者支援施設における支援に関する調査

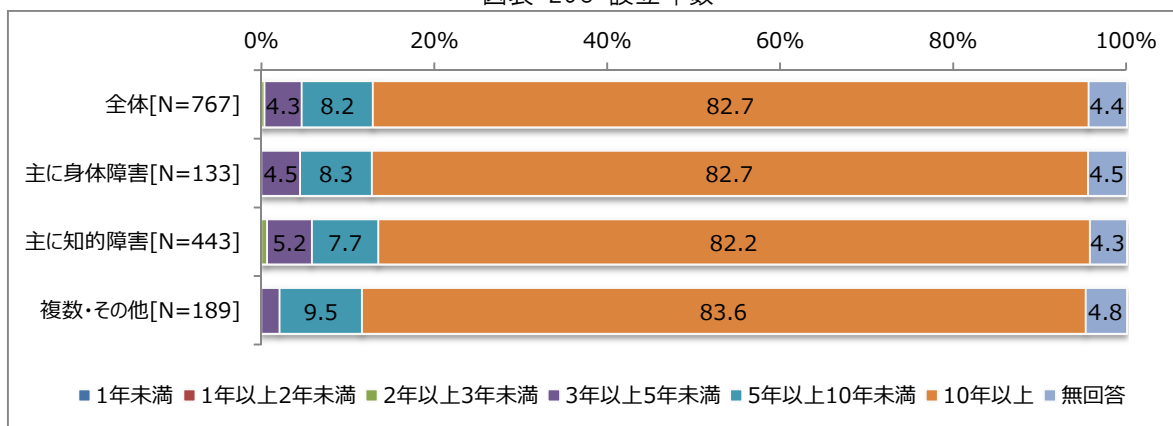
【事業所票の結果】

(1) 事業所概要

① 設立年数

設立年数は、施設区分全体では、「10年以上」が82.7%と多くを占めている。

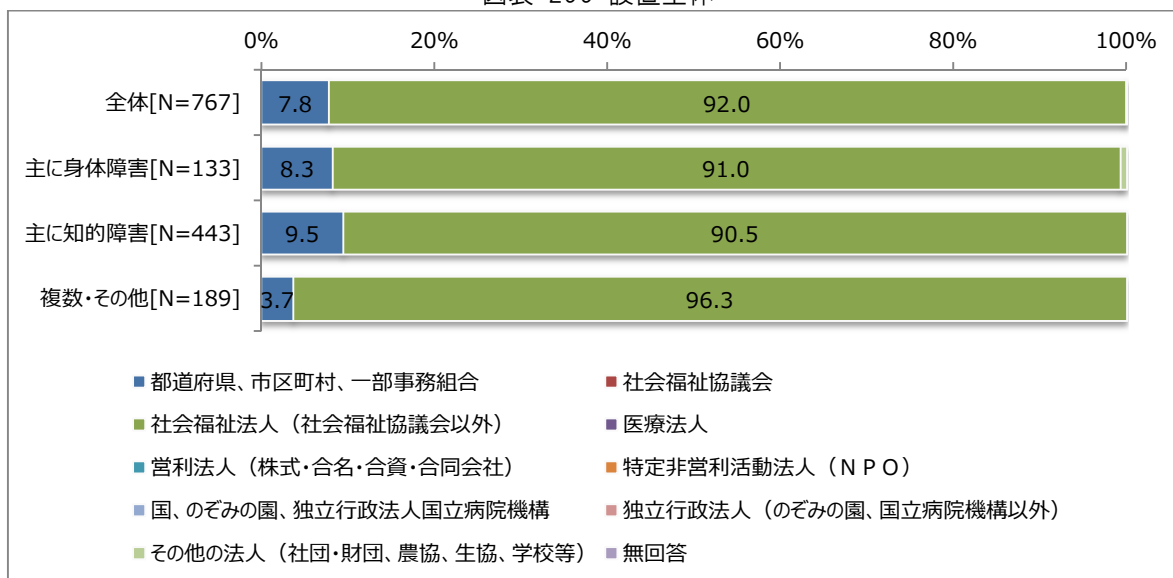
図表 298 設立年数



② 設置主体

設置主体については、施設区分全体では、「社会福祉法人（社会福祉協議会以外）」が92.0%と多くを占める。

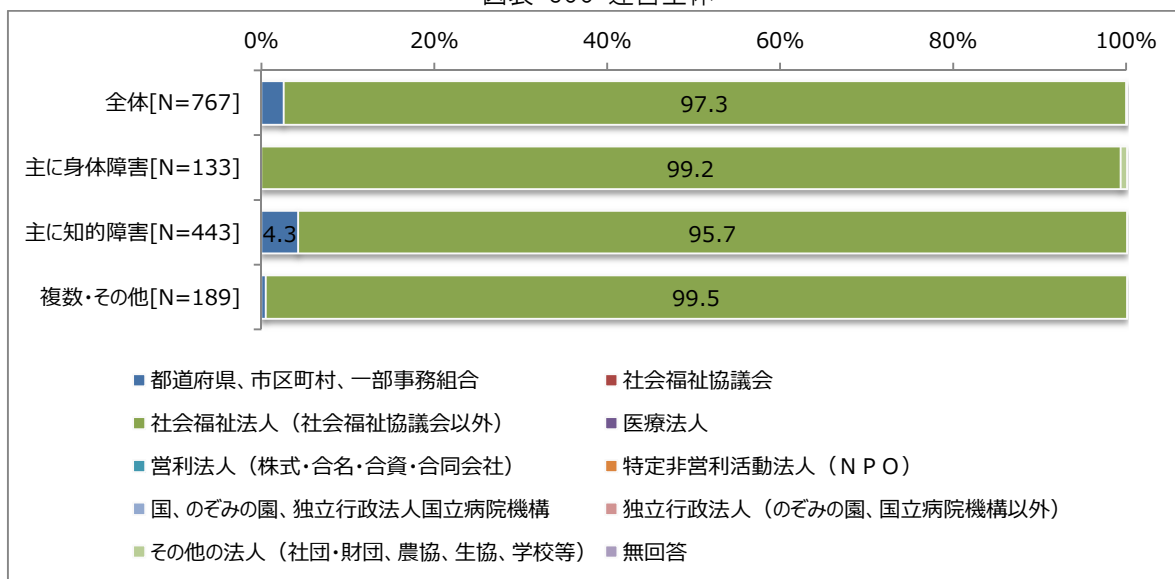
図表 299 設置主体



③運営主体

運営主体については、施設区分全体では、「社会福祉法人（社会福祉協議会以外）」が97.3%と多くを占める。

図表 300 運営主体

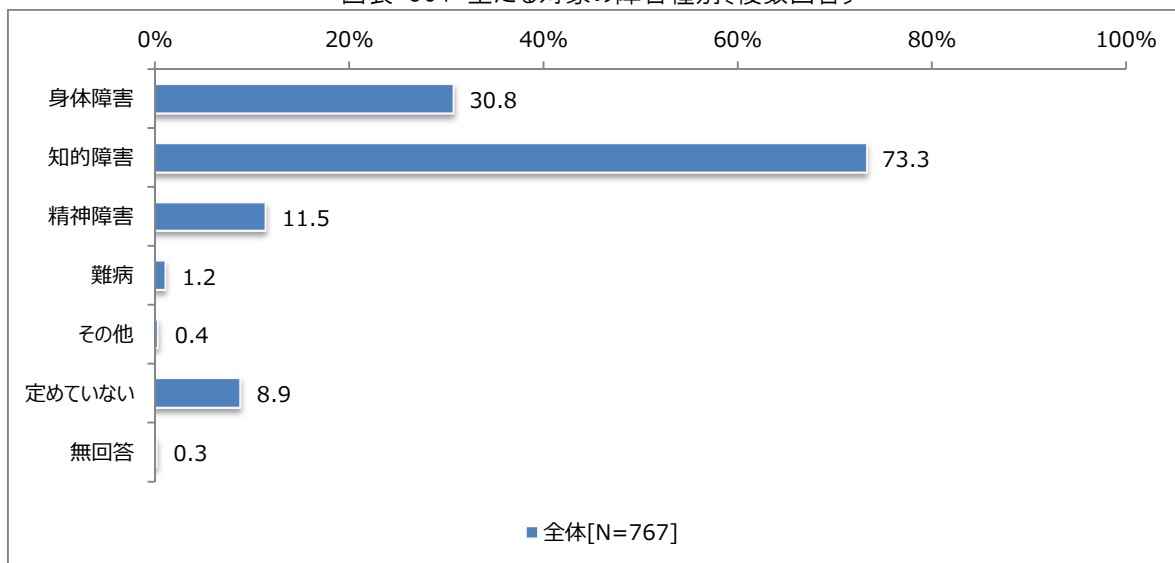


(2) 施設の基本情報

①主たる対象の障害種別

運営規程上、主たる対象とする障害種別を定めているかどうかを聞いたところ、施設区分全体では、「知的障害」が73.3%と高い割合になっている。

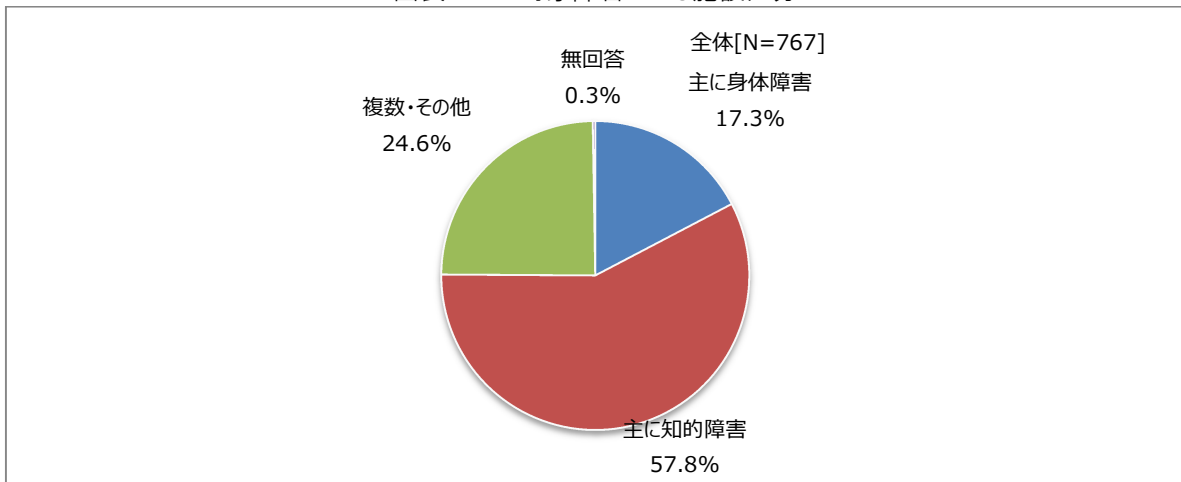
図表 301 主たる対象の障害種別〔複数回答〕



施設の種別を区分するために、前述の「運営規程上の主たる対象とする障害種別」により分類を行った。「運営規程上の主たる対象とする障害種別」で、「身体障害」のみを回答した施設は「主に身体障害」、「知的障害」のみを回答した施設は「主に知的障害」、それ以外の施設は「複数・その他」とした。この区分により、各施設を、主に身体障害者を対象とする施設、主に知的障害者を対象とする施設、その他の施設に区分して集計を行う。

この区分では、回答施設のうち、「主に知的障害」の施設が57.8%と6割近くを占め、「複数・その他」が24.6%、「主に身体障害」が17.3%となっている。

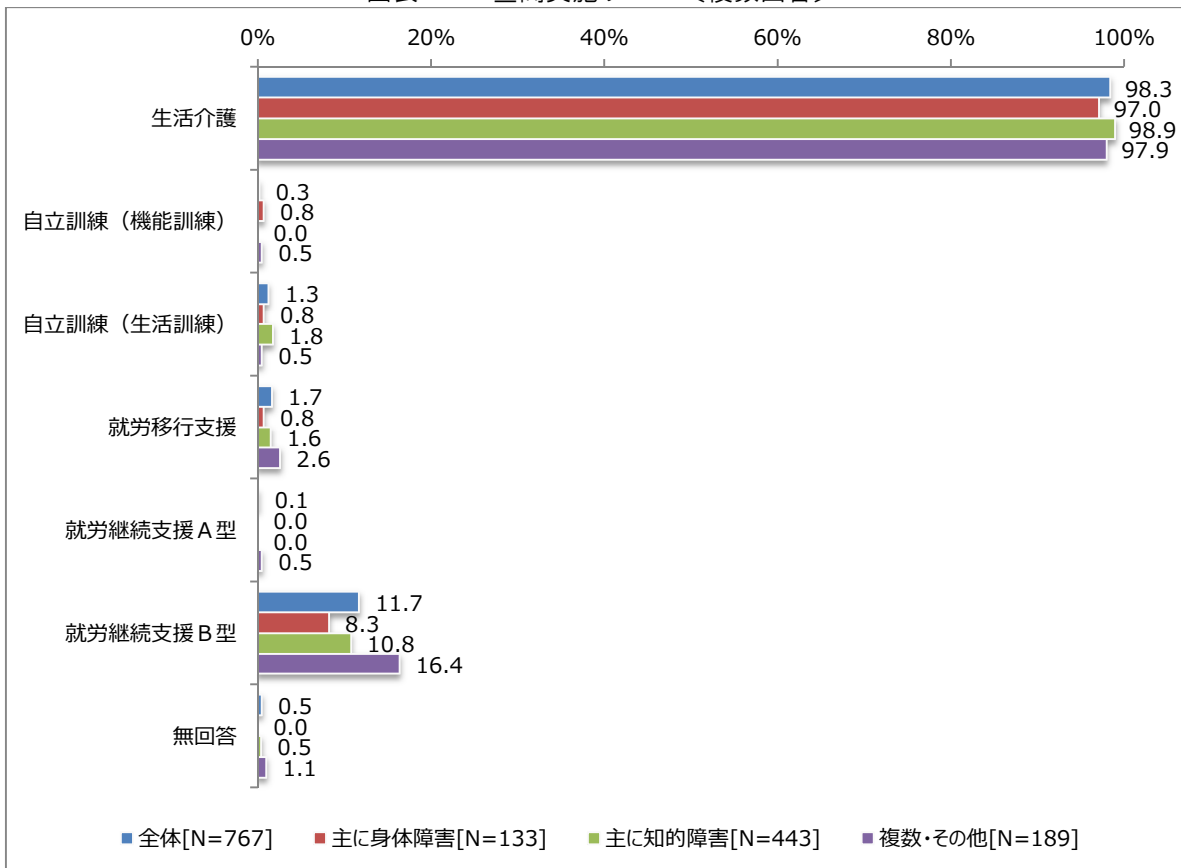
図表 302 対象障害による施設区分



② 昼間実施サービス

施設の昼間実施サービスは、施設区分全体では、「生活介護」が98.3%とほとんどを占める。

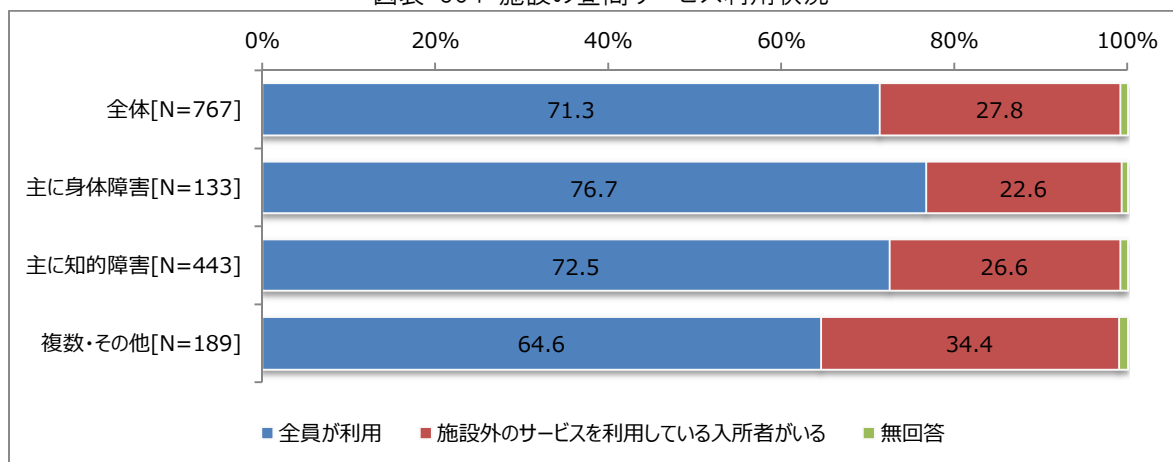
図表 303 昼間実施サービス〔複数回答〕



③施設の昼間サービス利用状況

施設区分全体では、「全員が利用」が71.3%、「施設外のサービスを利用している入所者がいる」が27.8%となっている。

図表 304 施設の昼間サービス利用状況



④施設外の昼間サービス利用の状況

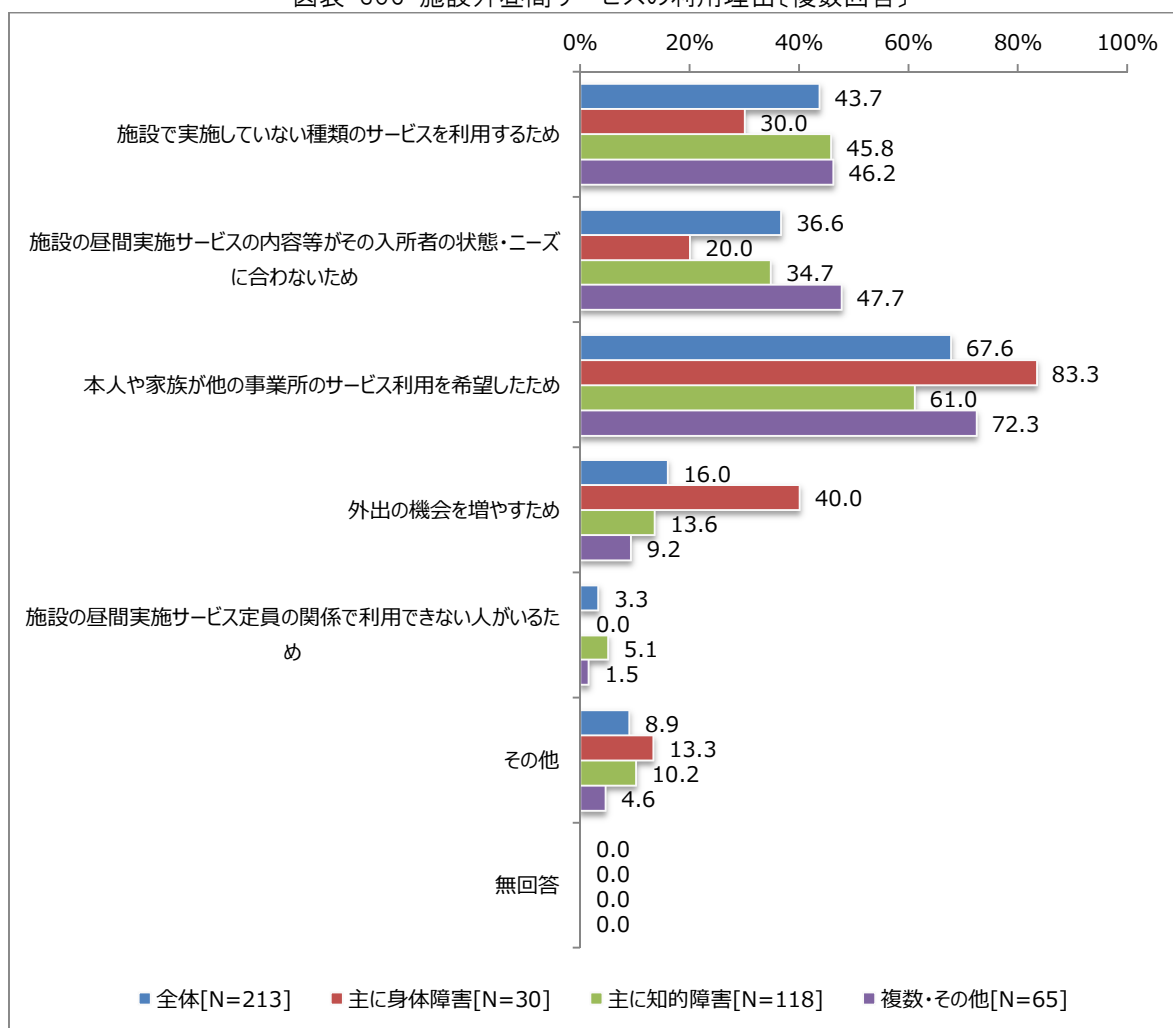
施設外の昼間サービスを利用している入所者がいるところに、その人数等を聞いたところ、施設区分全体では、平成28年9月における利用実人数の平均は3.9人、延べ人数の平均は59.2人となっている。また、施設外の昼間サービス事業所への送迎延べ人数を聞いたところ、送迎者別の平均人数は、「通所先」42.2人、「自施設」7.2人、「送迎していない」7.1人、「その他」2.0人となっている。

図表 305 施設外の昼間サービス利用人数(平均)

(人)		全体[N=210]	主に身体障害 [N=30]	主に知的障害 [N=115]	複数・その他 [N=65]
実人数		3.9	2.8	4.2	3.8
延べ人数		59.2	23.8	74.7	48.2
送迎延べ人数	自施設	7.2	1.7	13.8	1.2
	通所先	42.2	16.9	51.8	43.7
	その他	2.0	0.0	0.1	5.6
	送迎していない	7.1	0.0	14.7	0.6

施設外の昼間サービスの利用理由については、施設区分全体では、「本人や家族が他の事業所のサービス利用を希望したため」が67.6%、「施設で実施していない種類のサービスを利用するため」が43.7%、「施設の昼間実施サービスの内容等がその入所者の状態・ニーズに合わないため」が36.6%となっている。

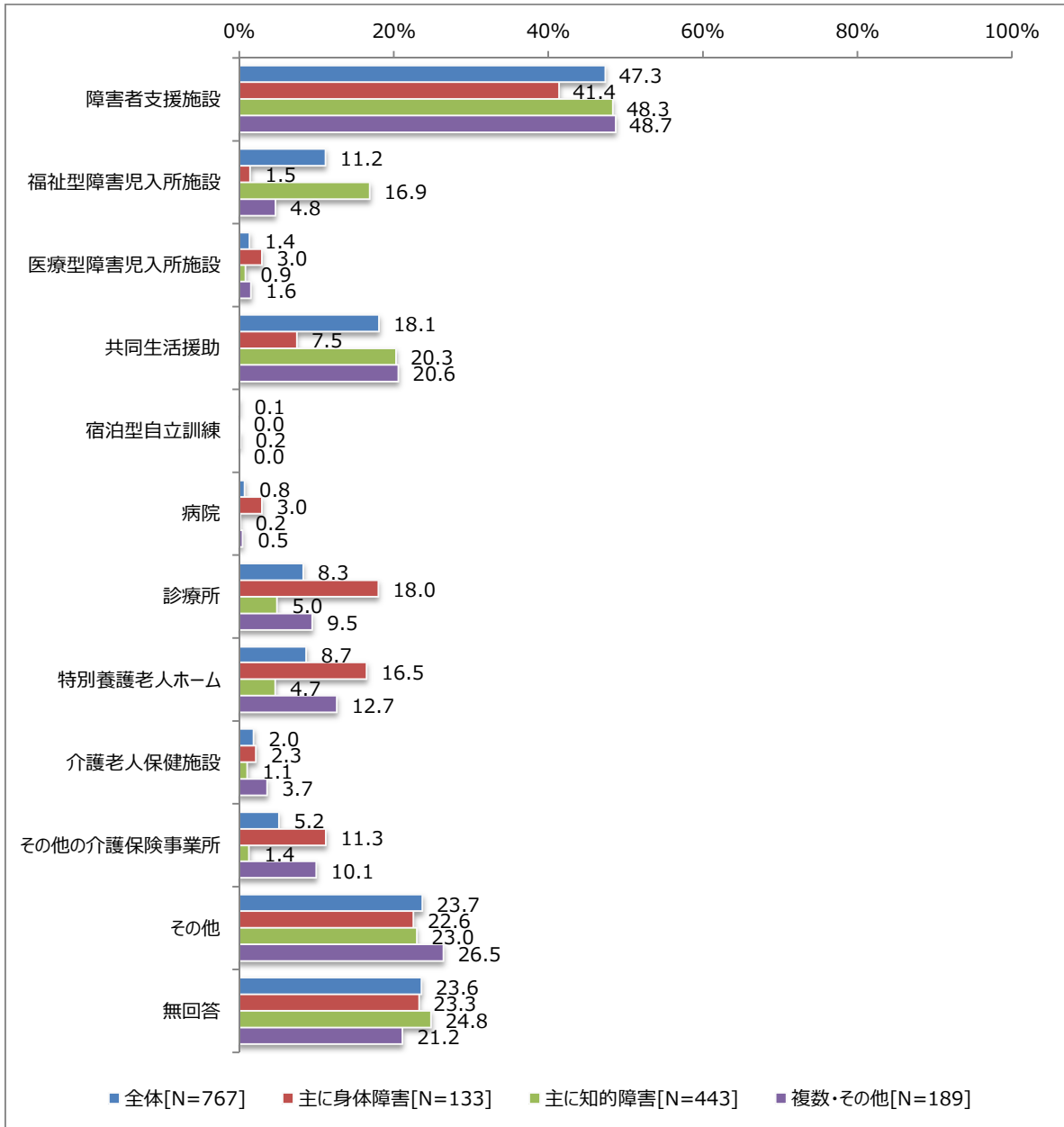
図表 306 施設外昼間サービスの利用理由〔複数回答〕



⑤併設施設

併設施設については、施設区分全体では、「障害者支援施設」が47.3%とほぼ半数を占める。

図表 307 併設施設〔複数回答〕



⑥施設職員数

施設全体での職員数について、施設区分全体では、1施設あたり平均人数は以下のようになっている。1施設あたりの生活支援員は、合計で実人数31.3人である。うち、実人数で介護福祉士の資格保有者が9.3人、社会福祉士の資格保有者が1.6人、精神保健福祉士の資格保有者が0.3人となっている。

図表 308 施設職員数

(人)	全体[N=758]						
	常勤専従	常勤兼務		非常勤		合計	
		実人数	常勤換算	実人数	常勤換算	実人数	常勤換算
施設長	0.6	0.5	0.4	0.0	0.0	1.1	0.9
うち、社会福祉士	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.2	0.2
サービス管理責任者	1.1	0.5	0.3	0.0	0.0	1.7	1.5
うち、社会福祉士	0.2	0.1	0.1	0.0	0.0	0.3	0.3
うち、介護福祉士	0.6	0.2	0.1	0.0	0.0	0.8	0.7
うち、精神保健福祉士	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0
生活支援員	20.1	6.1	4.8	5.1	3.2	31.3	28.2
うち、社会福祉士	1.1	0.4	0.2	0.1	0.0	1.6	1.4
うち、介護福祉士	6.8	2.0	1.4	0.5	0.3	9.3	8.4
うち、精神保健福祉士	0.2	0.1	0.1	0.0	0.0	0.3	0.3
理学療法士	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.3	0.1
作業療法士	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1
言語聴覚士	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0
医師	0.0	0.0	0.0	0.8	0.1	0.8	0.1
保健師看護師	0.9	0.3	0.2	0.3	0.2	1.5	1.2
准看護師	0.5	0.2	0.1	0.2	0.1	0.9	0.7
管理栄養士	0.4	0.1	0.1	0.0	0.0	0.6	0.5
栄養士	0.4	0.2	0.1	0.0	0.0	0.6	0.5
調理員	1.6	0.4	0.3	0.6	0.3	2.6	2.2
事務員	1.5	0.5	0.3	0.2	0.1	2.3	2.0
その他	0.6	0.2	0.1	0.8	0.4	1.5	1.1

(3) 施設入所支援の状況

①定員数・居室数

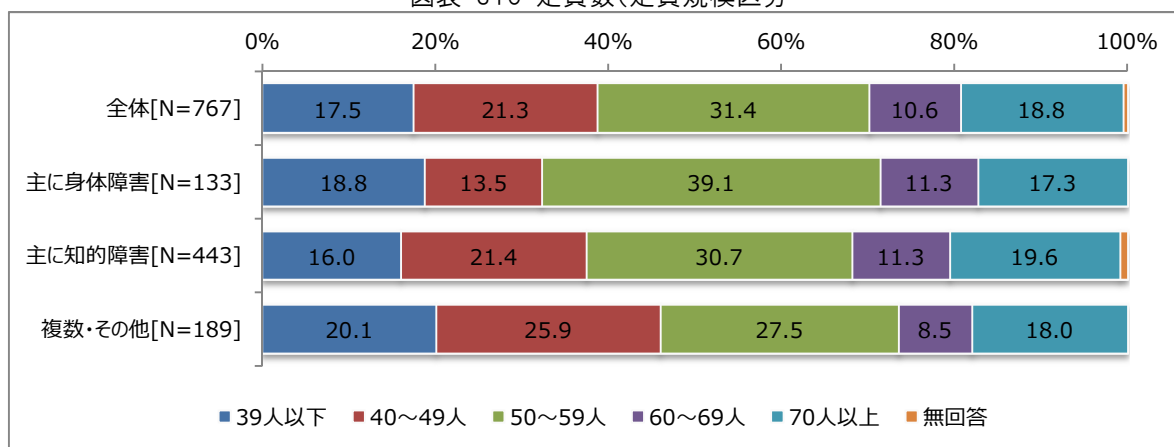
施設区分全体では、1施設あたりの定員数の平均は、54.3人となっている。

回答事業所の定員数を区分して見たところ、施設区分全体では、定員「50～59人」が31.4%、「40～49人」が21.3%となっている。

図表 309 定員数

	全体[N=763]	主に身体障害 [N=133]	主に知的障害 [N=439]	複数・その他 [N=189]
定員数(人)	54.3	52.8	54.9	54.0

図表 310 定員数(定員規模区分)



居室数について、施設区分全体では、1施設あたりの部屋数の平均は34.5室となっている。利用人数別では、個室の平均は19.3室、2人利用室の平均は11.6室、3人利用室の平均は1.6室、4人利用の平均は2.0室となっている。

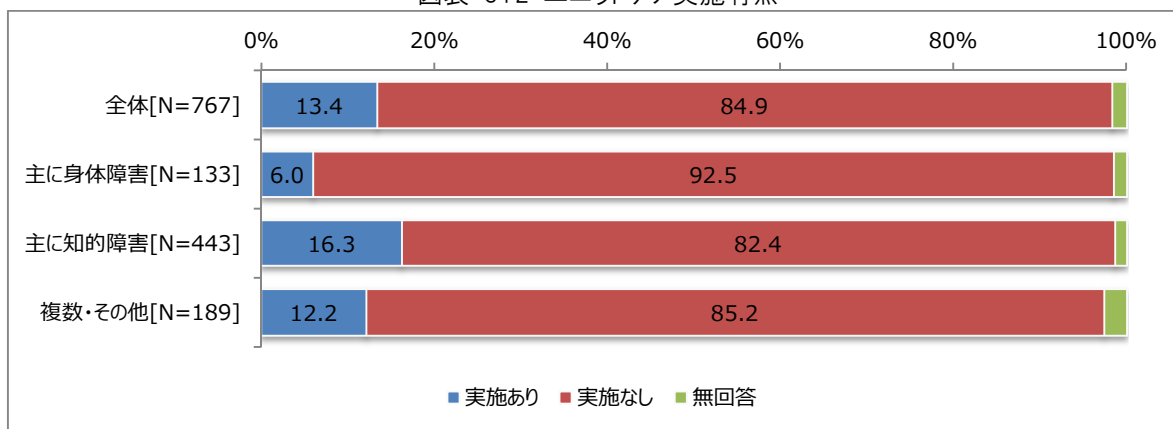
図表 311 居室数

(室)	全体[N=755]	主に身体障害 [N=131]	主に知的障害 [N=436]	複数・その他 [N=186]
個室	19.3	19.7	19.3	18.9
2人利用	11.6	9.1	11.9	12.3
3人利用	1.6	0.8	1.9	1.5
4人利用	2.0	3.5	1.7	1.8
5人以上利用	0.0	0.1	0.0	0.0
合計	34.5	33.2	34.9	34.6

②ユニットケア実施の有無

ユニットケアについては、施設区分全体では、「実施なし」が84.9%、「実施あり」が13.4%となっている。

図表 312 ユニットケア実施有無

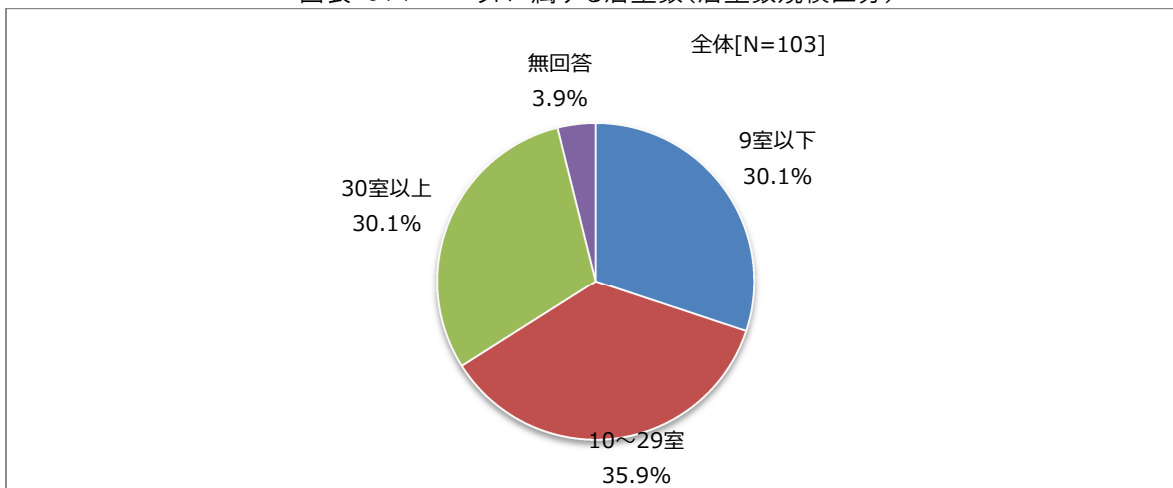


ユニットケアを実施しているところに、ユニットに属する居室数を聞いたところ、施設区分全体では、実施施設1施設あたりの平均は23.8室となっている。居室数の規模を見ると、「9室以下」「10～29室」「30室以上」がほぼ1/3ずつとなっている。

図表 313 ユニットに属する居室数

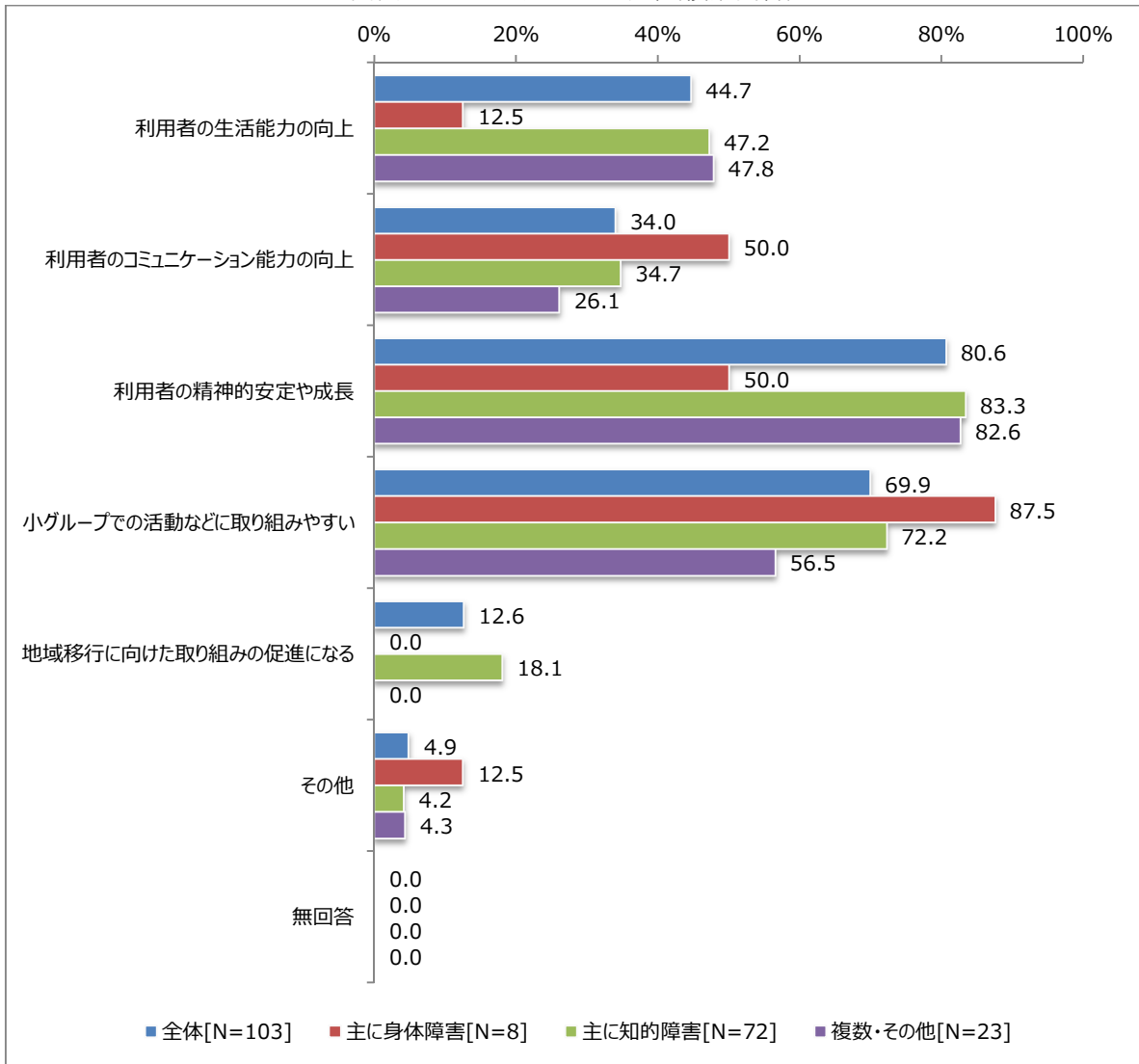
	全体[N=99]	主に身体障害 [N=8]	主に知的障害 [N=69]	複数・その他 [N=22]
ユニットに属する居室数(室)	23.8	21.8	21.8	30.9

図表 314 ユニットに属する居室数(居室数規模区分)



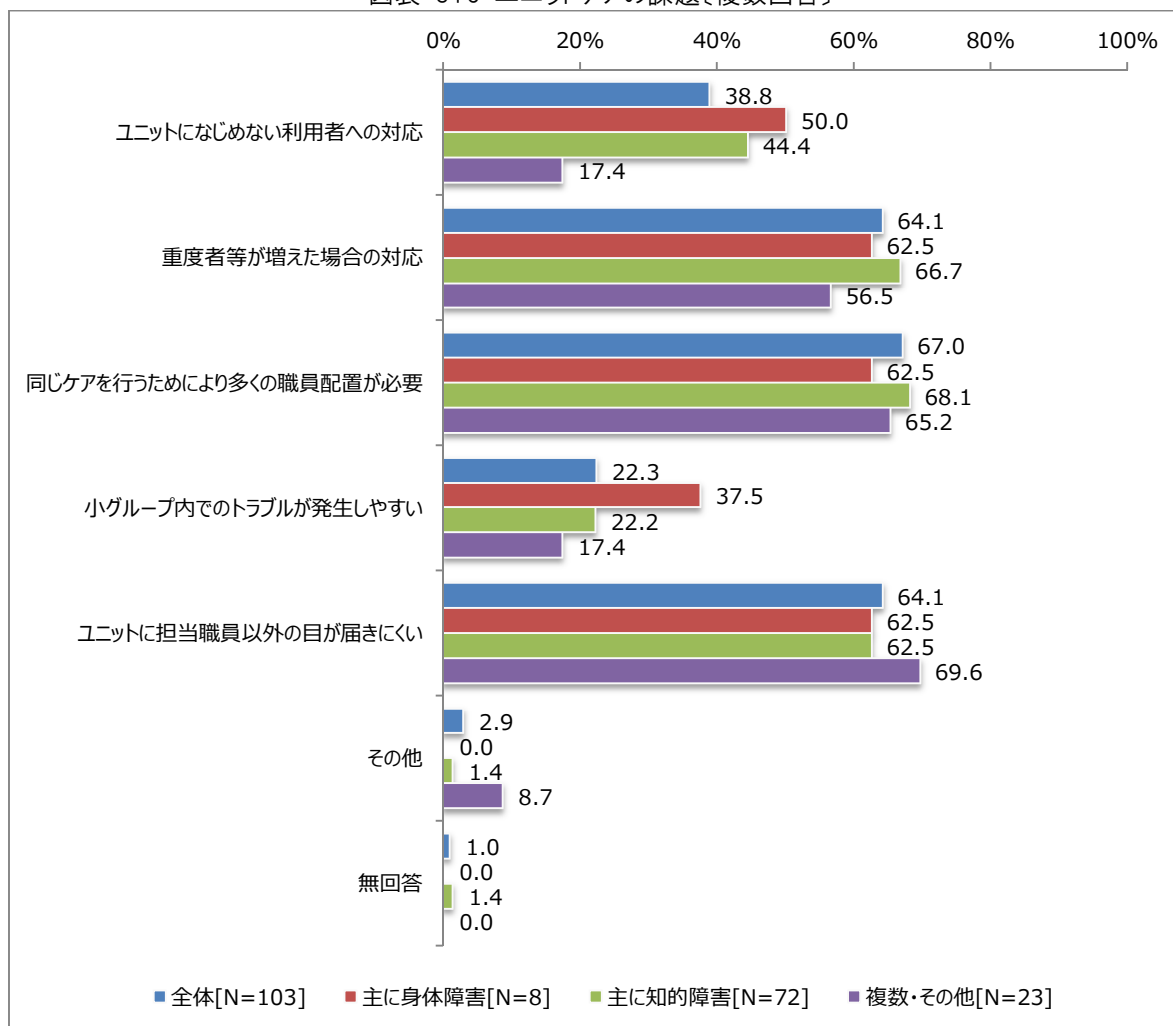
ユニットケアの効果については、施設区分全体では、「利用者の精神的安定や成長」が80.6%と高い割合となっており、次いで、「小グループでの活動などに取り組みやすい」が69.9%、「利用者の生活能力の向上」が44.7%と続いている。

図表 315 ユニットケアの効果〔複数回答〕



ユニットケアの課題としては、施設区分全体では、「同じケアを行うためにより多くの職員配置が必要」が67.0%、「重度者等が増えた場合の対応」「ユニットに担当職員以外の目が届きにくい」がいずれも64.1%となっている。

図表 316 ユニットケアの課題〔複数回答〕



③実利用者数

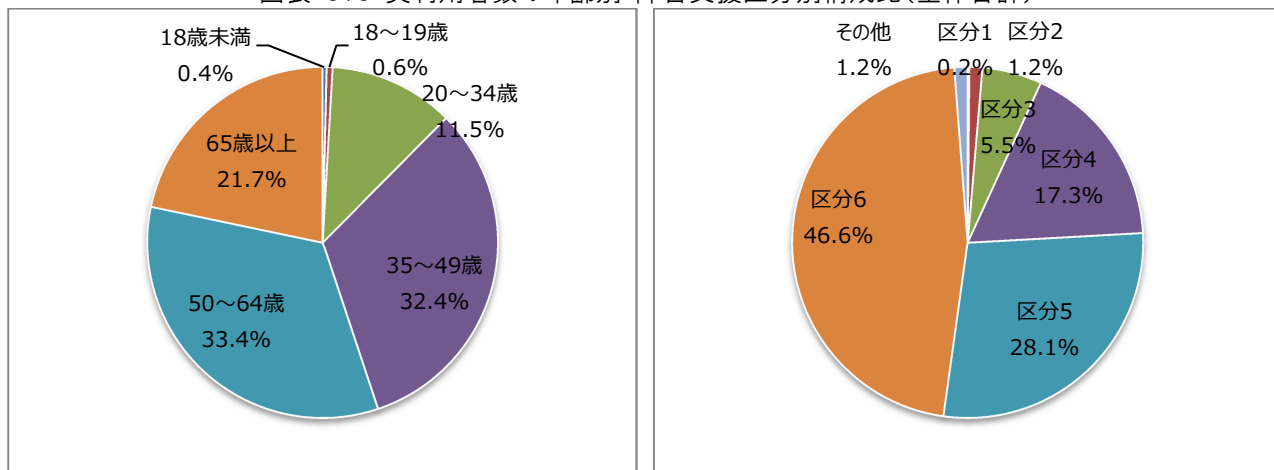
平成28年9月の施設入所実利用者数は、施設区分全体では、回答事業所の合計で以下の通りとなっている。障害支援区分別では、区分6の利用者が18,696人で最も多い。また、性別年齢別では、男性は35～49歳、女性は50～64歳の利用者が多く、それぞれ8,454人、5,686人となっている。

実利用者数の年齢別、障害支援区分別の人数構成比を見ると、年齢別では、「50～64歳」が33.4%、「35～49歳」が32.4%、障害支援区分別では、「区分6」が46.6%となっている。

図表 317 実利用者数(全体合計)

(人)		区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	障害児・非該当・その他	合計
18歳未満	男性	1	2	6	3	7	1	78	98
	女性	1	1	2	2	1	0	41	48
18～19歳	男性	0	1	1	37	54	50	3	146
	女性	2	1	2	22	19	25	4	75
20～34歳	男性	3	34	87	541	960	1,492	41	3,158
	女性	5	19	51	269	412	698	19	1,473
35～49歳	男性	11	96	212	1,361	2,452	4,256	66	8,454
	女性	3	38	139	808	1,220	2,331	26	4,565
50～64歳	男性	19	113	569	1,404	2,214	3,320	85	7,724
	女性	11	57	404	972	1,551	2,644	47	5,686
65歳以上	男性	4	64	443	817	1,226	1,898	37	4,489
	女性	2	53	290	701	1,161	1,981	44	4,232
合計	男性	38	310	1,318	4,163	6,913	11,017	310	24,069
	女性	24	169	888	2,774	4,364	7,679	181	16,079
総計		62	479	2,206	6,937	11,277	18,696	491	40,148
うち強度行動障害を有する	男性	1	8	31	307	1,402	3,428	177	5,354
	女性	0	5	28	193	693	1,909	147	2,975

図表 318 実利用者数の年齢別・障害支援区分別構成比(全体合計)

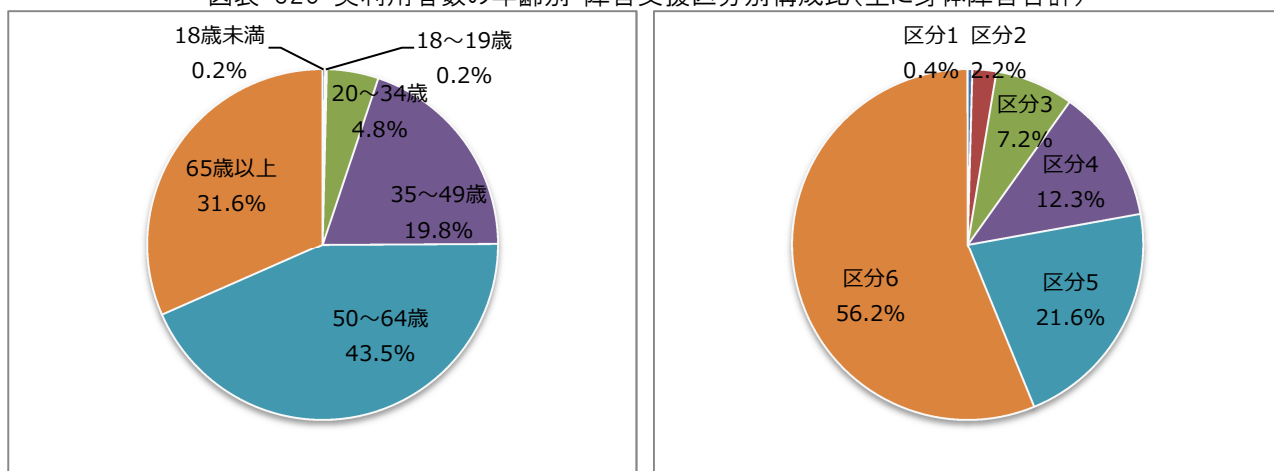


実利用者数合計の施設区別の人数は、それぞれ、以下の通りである。

図表 319 実利用者数(主に身体障害合計)

(人)		区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	障害児・非該当・その他	合計
18歳未満	男性	0	2	6	3	1	0	0	12
	女性	1	1	1	0	0	0	0	3
18～19歳	男性	0	0	0	0	1	4	0	5
	女性	0	0	0	1	4	1	0	6
20～34歳	男性	1	9	18	26	28	108	1	191
	女性	3	2	4	13	24	87	0	133
35～49歳	男性	7	29	46	115	164	466	0	827
	女性	2	11	10	58	95	341	0	517
50～64歳	男性	6	54	176	258	434	929	0	1,857
	女性	6	13	64	126	232	662	0	1,103
65歳以上	男性	3	24	118	155	294	643	0	1,237
	女性	0	5	49	82	195	580	0	911
合計	男性	17	118	364	557	922	2,150	1	4,129
	女性	12	32	128	280	550	1,671	0	2,673
総計		29	150	492	837	1,472	3,821	1	6,802
うち強度行動障害を有する	男性	0	0	0	2	9	56	31	98
	女性	0	0	0	0	5	49	21	75

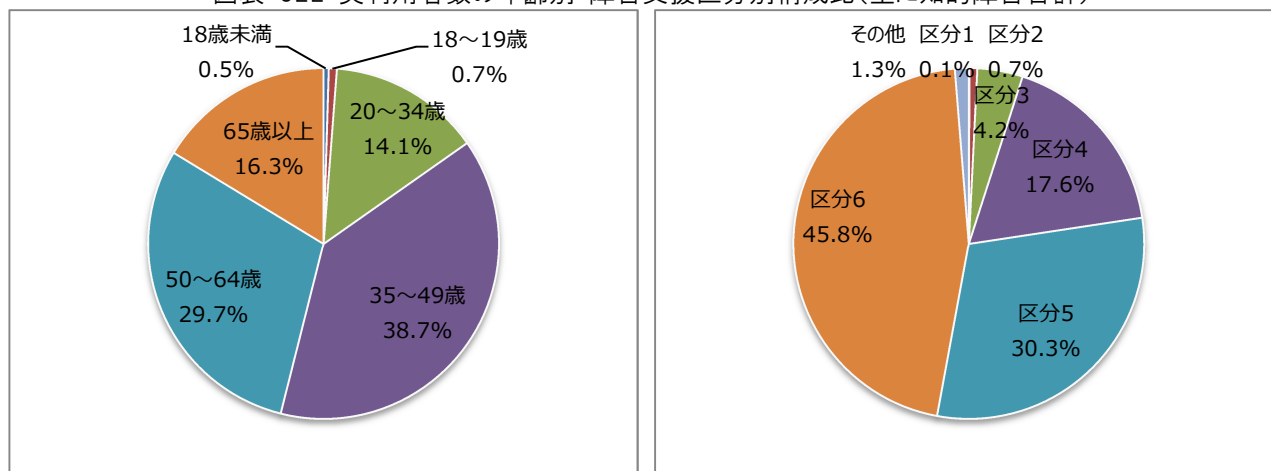
図表 320 実利用者数の年齢別・障害支援区別構成比(主に身体障害合計)



図表 321 実利用者数(主に知的障害合計)

(人)		区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	障害児・非該当・その他	合計
18歳未満	男性	1	0	0	0	6	1	61	69
	女性	0	0	1	2	1	0	38	42
18～19歳	男性	0	0	0	32	45	39	3	119
	女性	1	1	2	18	10	19	4	55
20～34歳	男性	2	19	38	361	708	1,090	26	2,244
	女性	2	11	31	202	311	478	16	1,051
35～49歳	男性	0	30	104	926	1,831	3,086	43	6,020
	女性	1	12	87	523	841	1,566	18	3,048
50～64歳	男性	3	27	198	758	1,254	1,588	37	3,865
	女性	3	21	212	548	936	1,370	20	3,110
65歳以上	男性	0	22	159	385	559	681	21	1,827
	女性	2	24	150	383	602	827	13	2,001
合計	男性	6	98	499	2,462	4,403	6,485	191	14,144
	女性	9	69	483	1,676	2,701	4,260	109	9,307
総計		15	167	982	4,138	7,104	10,745	300	23,451
うち強度行動障害を有する	男性	1	6	16	213	1,112	2,818	66	4,232
	女性	0	5	13	139	525	1,493	62	2,237

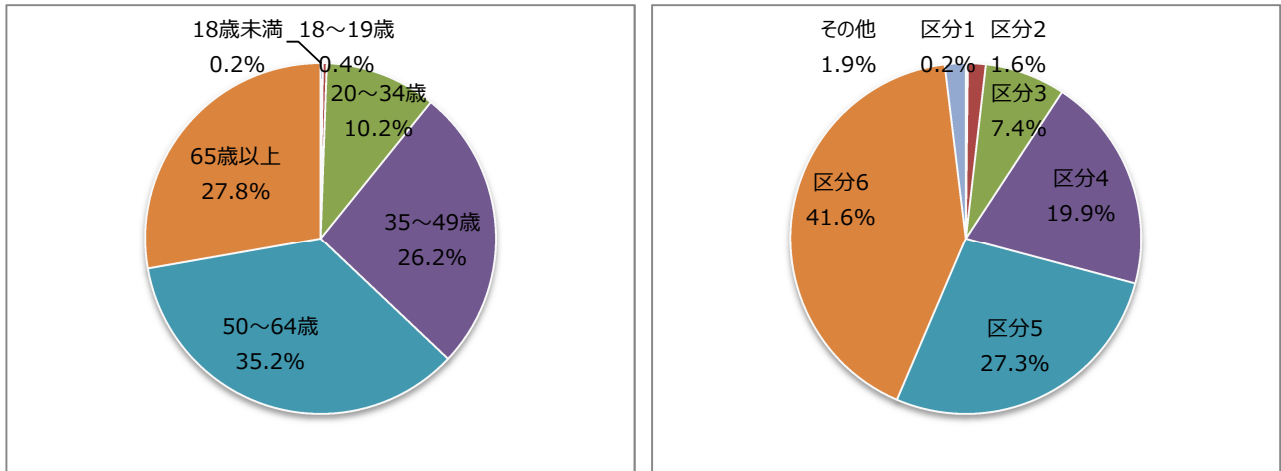
図表 322 実利用者数の年齢別・障害支援区分別構成比(主に知的障害合計)



図表 323 実利用者数(複数・その他合計)

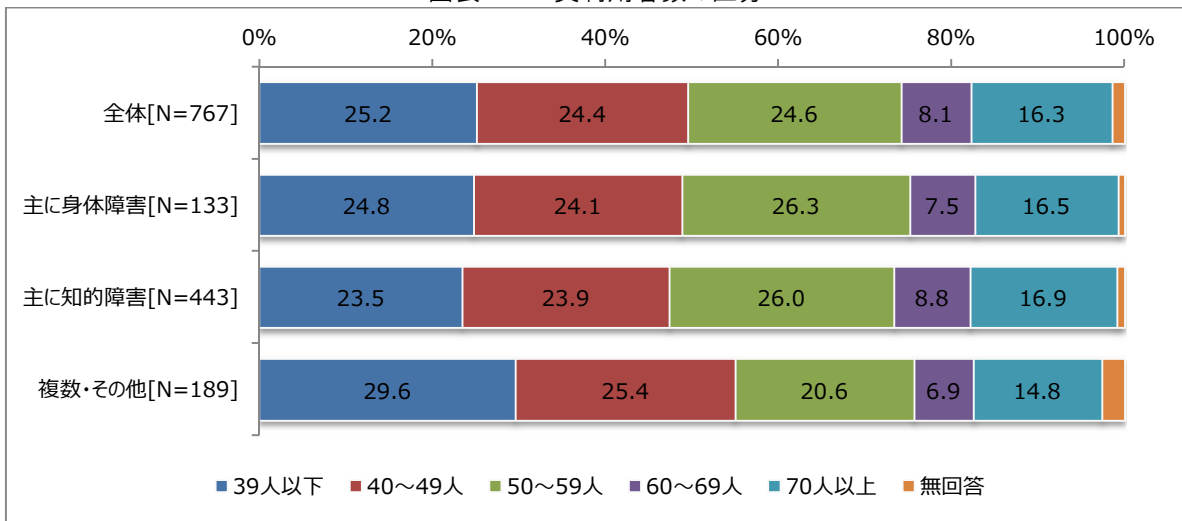
(人)		区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	障害児・非 該当・その他	合計
18歳未満	男性	0	0	0	0	0	0	17	17
	女性	0	0	0	0	0	0	3	3
18～19歳	男性	0	1	1	5	8	7	0	22
	女性	1	0	0	3	5	5	0	14
20～34歳	男性	0	6	31	154	224	292	14	721
	女性	0	6	16	54	76	133	3	288
35～49歳	男性	4	37	62	319	456	693	23	1,594
	女性	0	15	42	227	280	418	8	990
50～64歳	男性	10	32	195	387	523	799	48	1,994
	女性	2	23	128	298	382	610	27	1,470
65歳以上	男性	1	18	166	277	369	573	16	1,420
	女性	0	24	90	236	362	571	31	1,314
合計	男性	15	94	455	1,142	1,580	2,364	118	5,768
	女性	3	68	276	818	1,105	1,737	72	4,079
総計		18	162	731	1,960	2,685	4,101	190	9,847
うち強度行動 障害を有する	男性	0	2	15	92	278	540	80	1,007
	女性	0	0	15	54	161	358	64	652

図表 324 実利用者数の年齢別・障害支援区分別構成比(複数・その他合計)



実利用者数（合計）を区分して見たところ、施設区分全体では、「39人以下」が25.2%、「50～59人」が24.6%、「40～49人」が24.4%となっている。

図表 325 実利用者数の区分



④登録未入所の人数

入所利用の申し込み・登録をしておき、現在未入所の人数を聞いたところ、施設区分全体では、平均13.4人となっている。うち、定員外入所の人数は0.2人となっている。

図表 326 登録未入所人数

(人)	全体[N=729]	主に身体障害 [N=130]	主に知的障害 [N=421]	複数・その他 [N=176]
登録未入所人数	13.4	17.6	13.0	11.3
うち、定員外入所人数	0.2	0.1	0.2	0.2

⑤退所人数

平成27年10月～平成28年9月の一年間における施設退所者数を聞いたところ、施設区分全体では、合計は平均2.3人となっている。退所先・理由については、「死亡」が最も多く平均0.9人、次いで「入院」が平均0.5人となっている。

図表 327 退所先別退所人数

(人)	全体[N=749]	主に身体障害 [N=132]	主に知的障害 [N=434]	複数・その他 [N=181]
自宅	0.2	0.3	0.2	0.2
グループホーム	0.3	0.1	0.4	0.2
福祉ホーム	0.0	0.0	0.0	0.0
入所施設	0.3	0.4	0.3	0.2
入院	0.5	0.9	0.3	0.8
死亡	0.9	1.5	0.5	1.2
その他	0.1	0.1	0.1	0.1
合計	2.3	3.3	1.8	2.8

⑥入浴サービス提供回数

平成28年9月の入浴サービスの提供回数（利用者の1か月間の入浴回数の総和）については、施設区分全体では、1事業所あたりの平均回数で359.6回となっている。

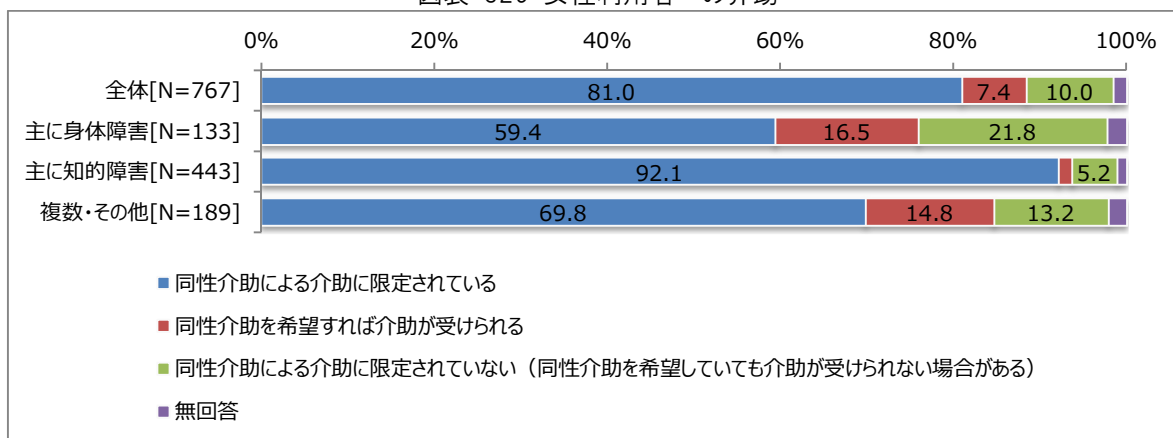
図表 328 入浴サービスの提供回数

	全体[N=749]	主に身体障害 [N=129]	主に知的障害 [N=437]	複数・その他 [N=181]
1事業所あたりの平均（回/月）	359.6	199.9	425.8	317.5

⑦同性介助の状況

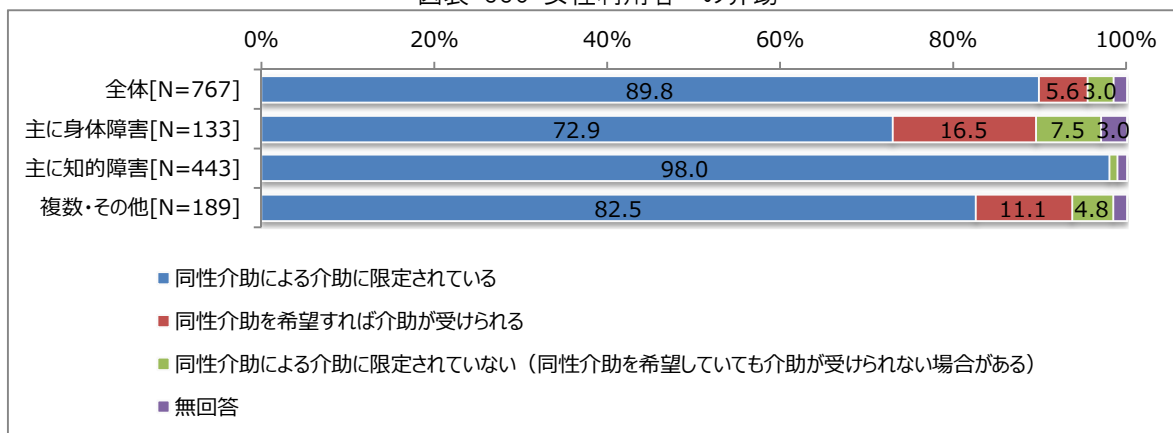
女性利用者への排せつ介助は、施設区分全体では、「同性介助による介助に限定されている」が81.0%となっている。

図表 329 女性利用者への介助



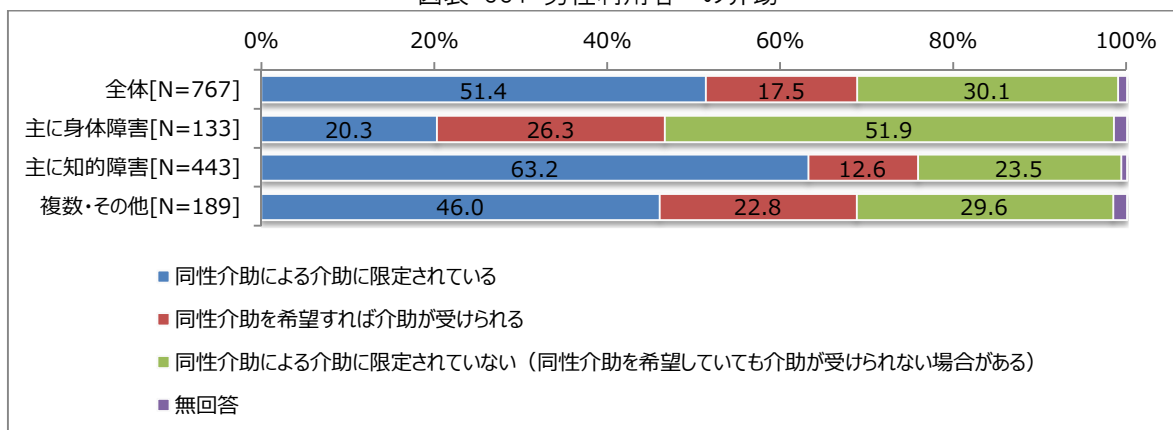
女性利用者への入浴介助は、施設区分全体では、「同性介助による介助に限定されている」が89.8%となっている。

図表 330 女性利用者への介助



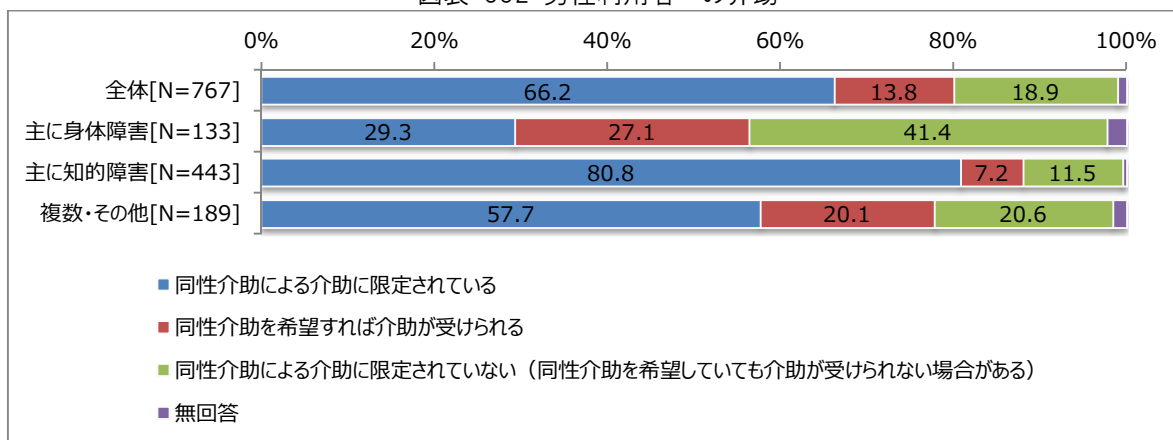
男性利用者への排せつ介助は、施設区分全体では、「同性介助による介助に限定されている」が51.4%、「同性介助による介助に限定されていない（同性介助を希望していても介助が受けられない場合がある）」が30.1%となっている。

図表 331 男性利用者への介助



男性利用者への入浴介助は、施設区分全体では、「同性介助による介助に限定されている」が66.2%、「同性介助による介助に限定されていない（同性介助を希望していても介助が受けられない場合がある）」が18.9%となっている。

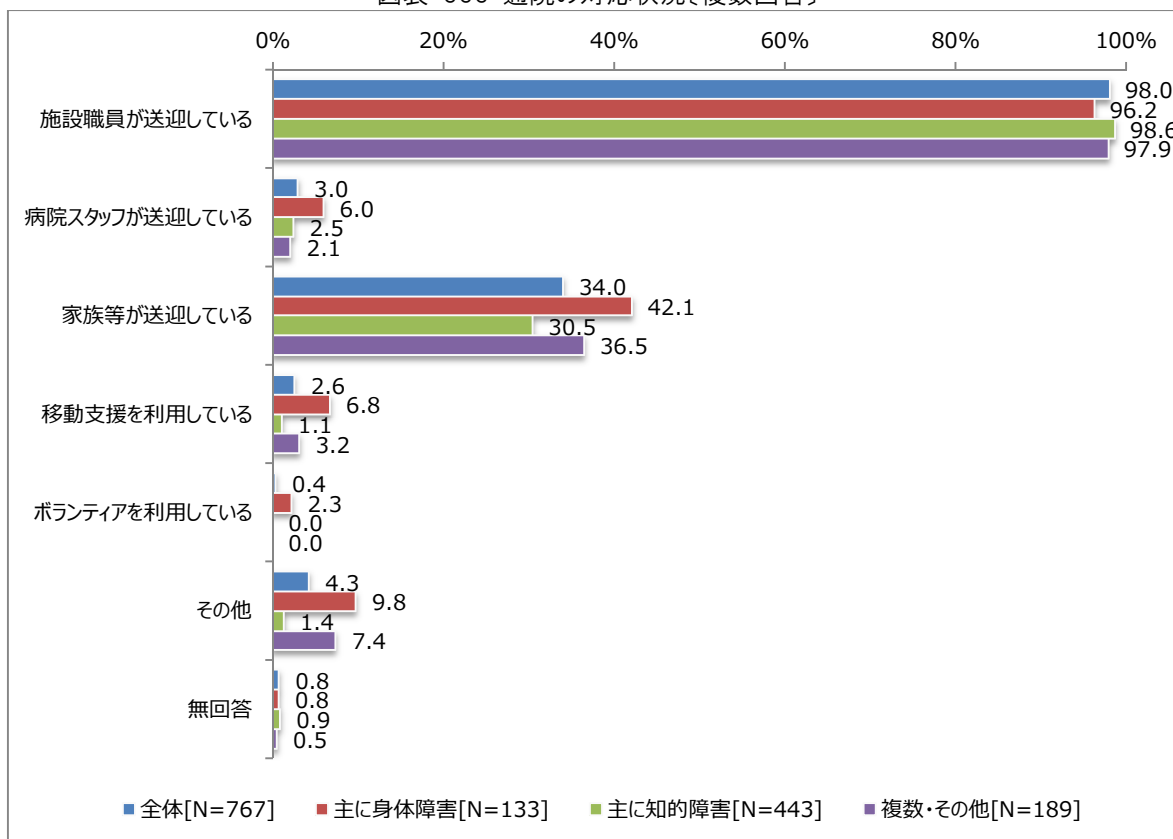
図表 332 男性利用者への介助



⑧通院の対応状況

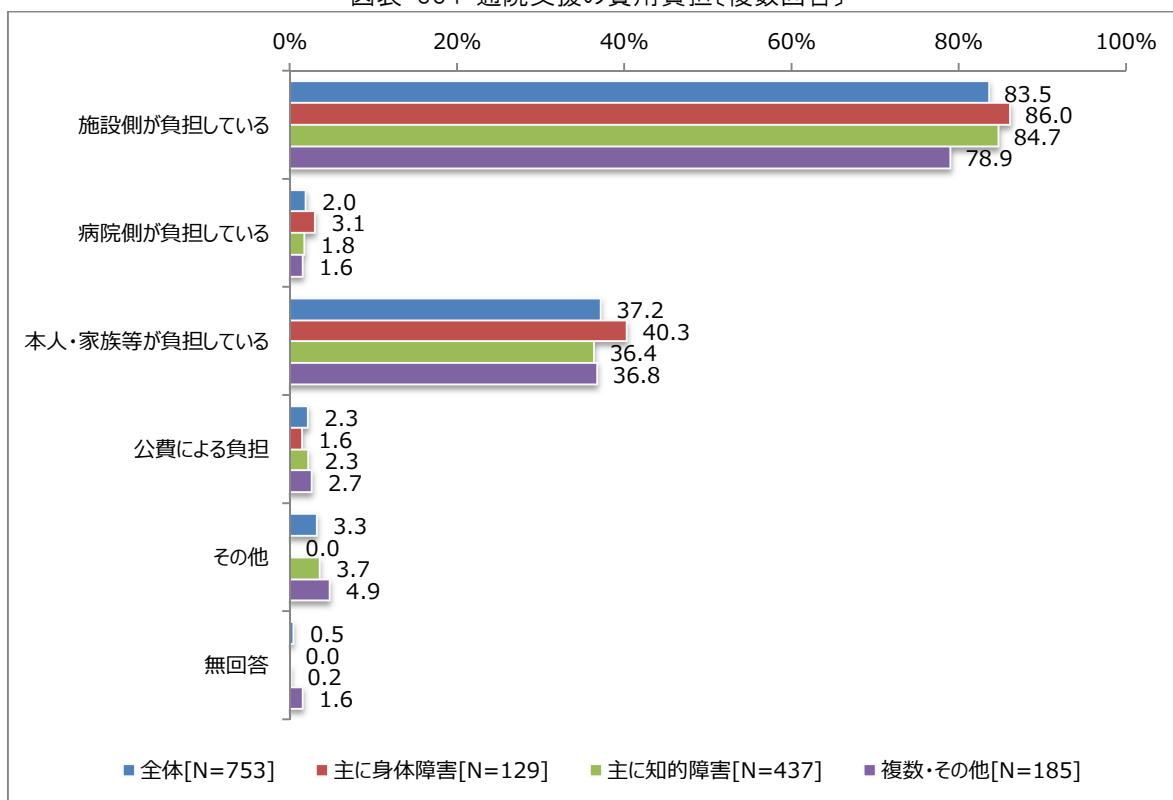
平成28年9月における、利用者の通院時の対応状況を聞いたところ、施設区分全体では、「施設職員が送迎している」が98.0%、「家族等が送迎している」が34.0%となっている。

図表 333 通院の対応状況〔複数回答〕



通院支援にかかる費用負担については、施設区分全体では、「施設側が負担している」が83.5%、「本人・家族等が負担している」が37.2%となっている。

図表 334 通院支援の費用負担〔複数回答〕



平成28年9月に通院支援を行った人数等を聞いたところ、施設区分全体では、1施設あたり、ひと月の通院にかかる延べ時間数は平均3,194分、通院者の実人数は平均27.0人、延べ人数は平均52.5人となっている。1人1回あたりの通院時間の平均は61分である。

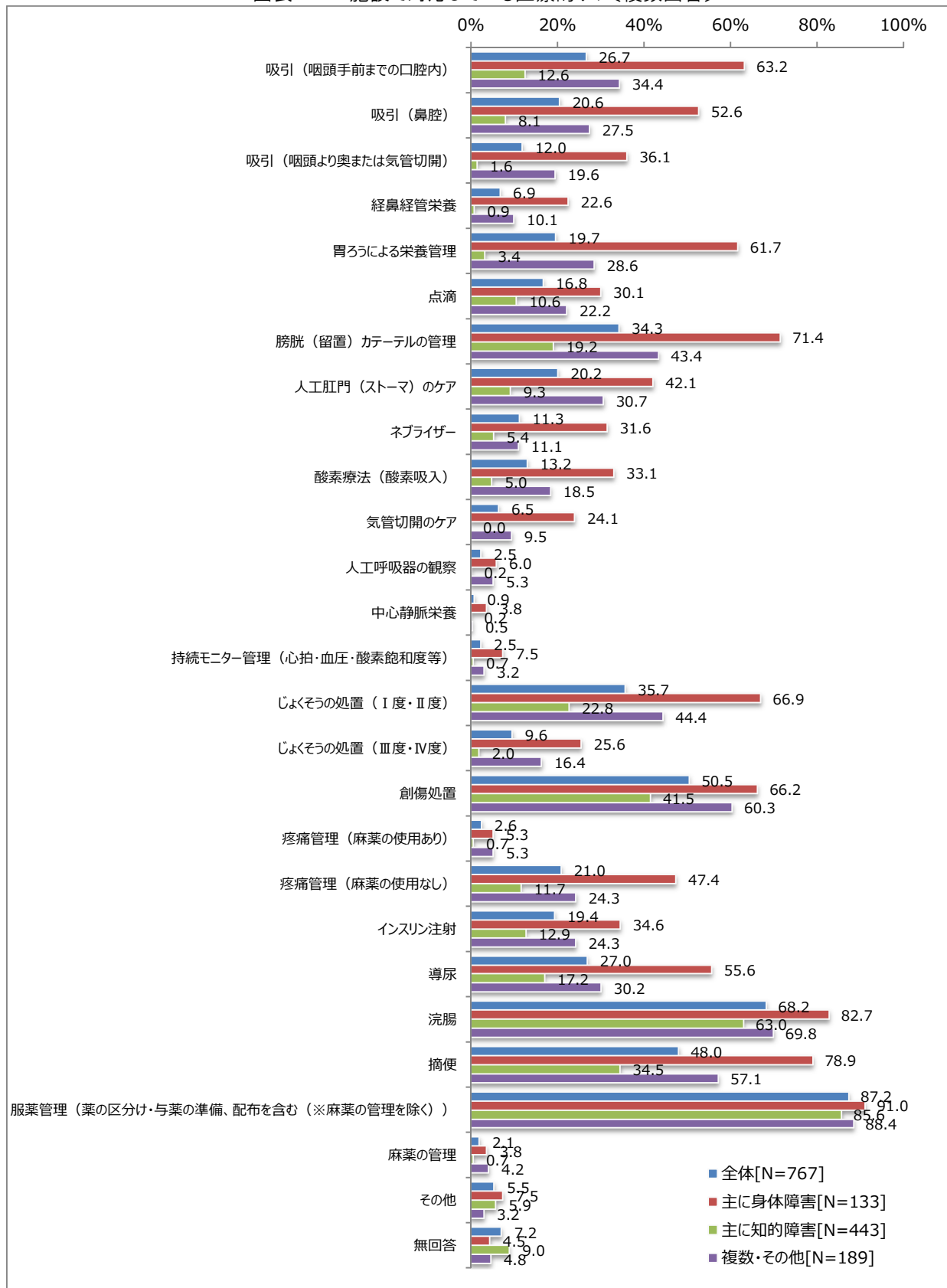
図表 335 通院支援の延べ時間・人数

	全体[N=538]	主に身体障害 [N=86]	主に知的障害 [N=318]	複数・その他 [N=132]
ひと月の通院にかかる延べ時間数(分)	3,194	2,281	3,315	3,509
通院者実人数(人)	27.0	20.0	29.1	26.4
通院者延べ人数(人)	52.5	35.6	57.7	51.2
1人1回あたりの通院時間(分)	61	64	57	69

⑨施設で対応している医療的ケア

施設で対応している医療的ケアについては、施設区分全体では、「服薬管理（薬の区分け・与薬の準備、配布を含む（※麻薬の管理を除く））」が87.2%、「浣腸」が68.2%、「創傷処置」が50.5%、「摘便」が48.0%となっている。

図表 336 施設で対応している医療的ケア〔複数回答〕



⑩配置医師数

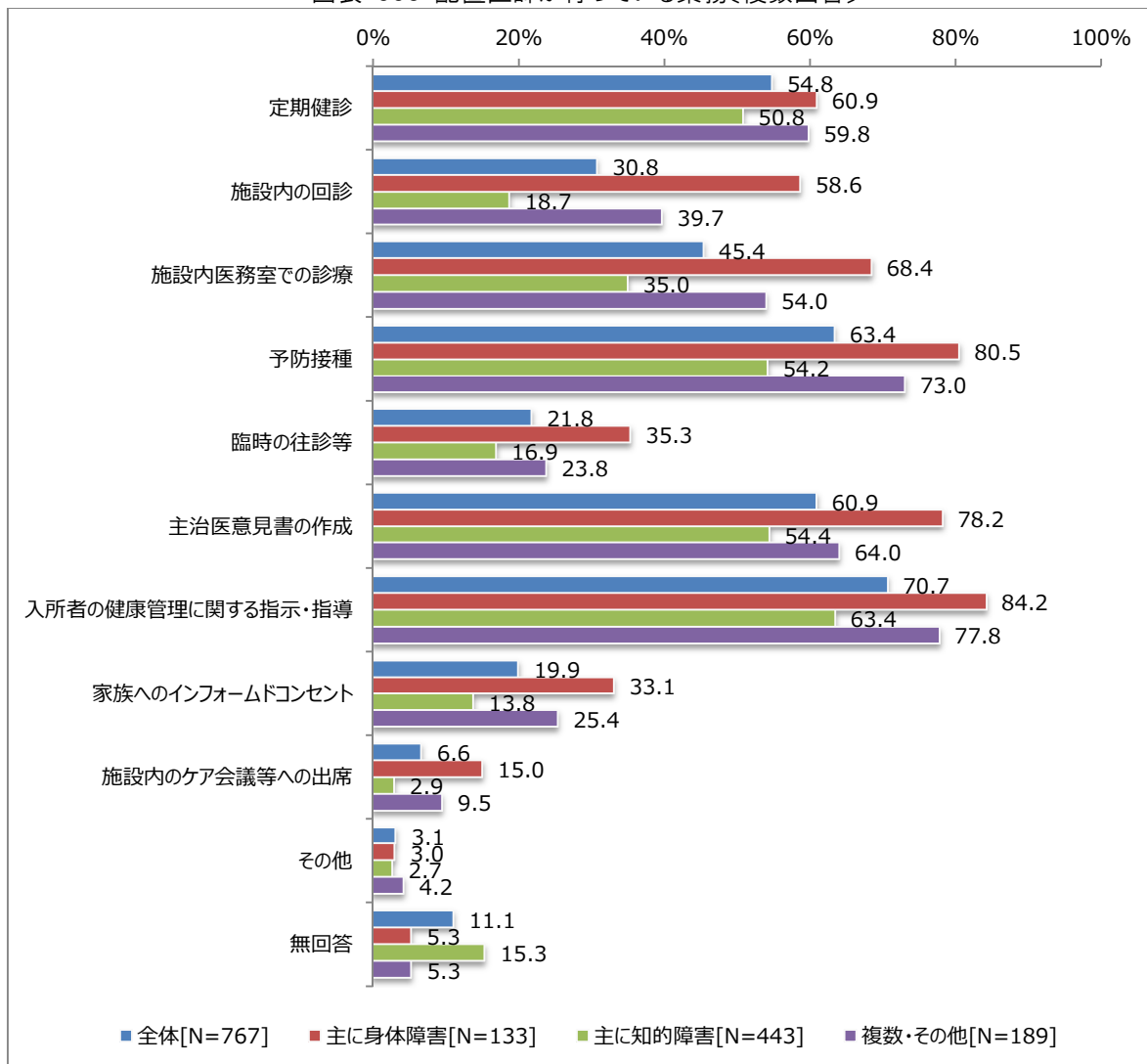
平成28年9月の配置医師の人数、勤務日数を聞いたところ、施設区分全体では、回答施設の合計で医師総数は852人、勤務日数は2,097日だった。医師の種別としては嘱託医の割合が高くなっている。1施設あたりの平均医師数は1.5人、延べ勤務日数の平均は3.6日となっている。

図表 337 医師総数

		回答事業所合計 [N=584]	割合	1施設あたり 平均	医師1人あたり 平均勤務日数
人数(人)	総数	852	100.0%	1.5	-
	うち、常勤	13	1.5%	0.0	-
	うち、非常勤	162	19.0%	0.3	-
	うち、嘱託	577	67.7%	1.0	-
	うち、医療機関派遣	100	11.7%	0.2	-
延べ勤務日数(日)	総数	2,097	100.0%	3.6	2.5
	うち、常勤	190	9.1%	0.3	14.6
	うち、非常勤	548	26.1%	0.9	3.4
	うち、嘱託	1,165	55.5%	2.0	2.0
	うち、医療機関派遣	195	9.3%	0.3	2.0

配置医師が行っている業務については、施設区分全体では、「入所者の健康管理に関する指示・指導」が70.7%、「予防接種」が63.4%、「主治医意見書の作成」が60.9%となっている。

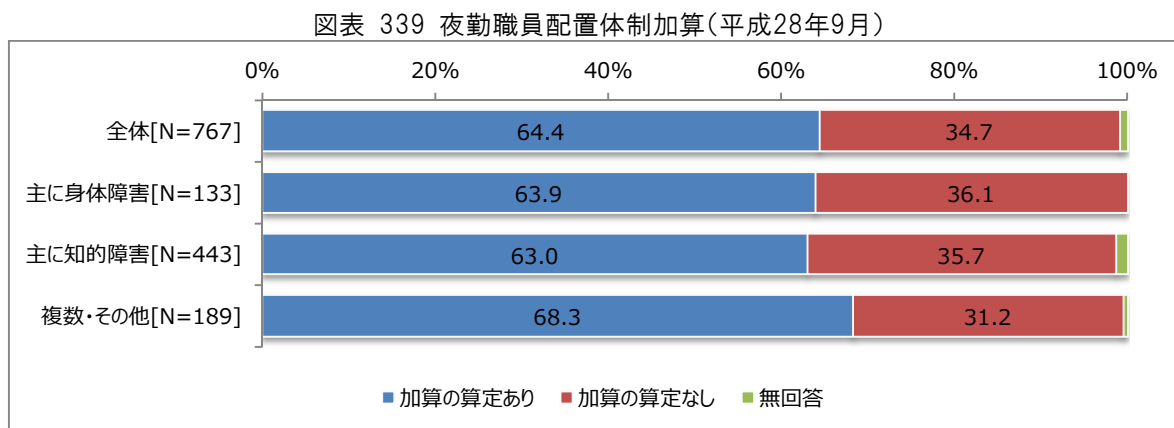
図表 338 配置医師が行っている業務〔複数回答〕



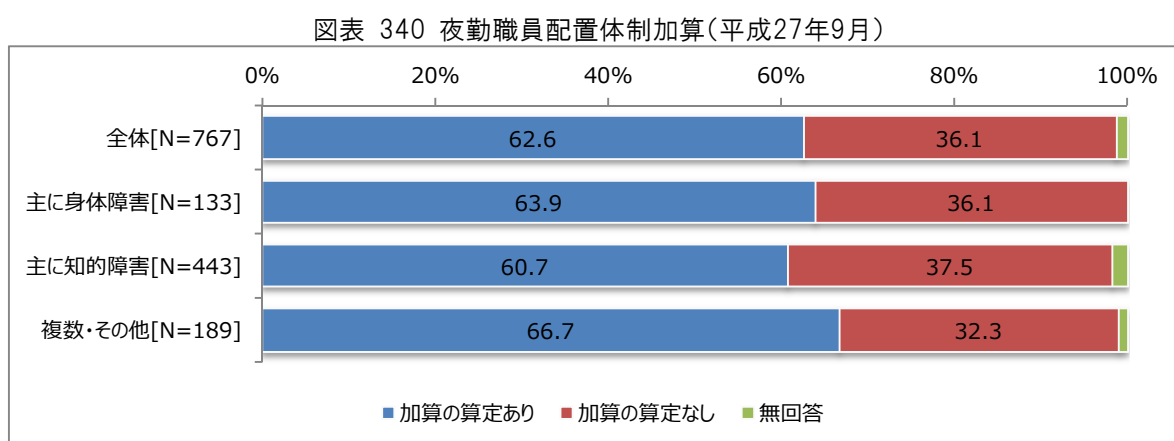
(4) 夜間・休日の体制等の状況

①夜勤職員配置体制加算

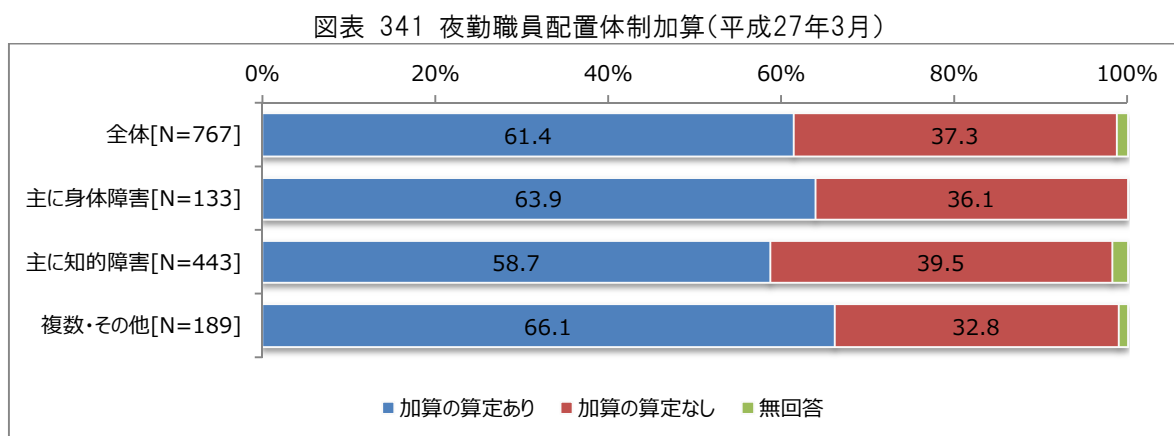
夜勤職員配置体制加算について、平成28年9月分の算定状況は、施設区分全体では、「加算の算定あり」が64.4%、「加算の算定なし」が34.7%となっている。



平成27年9月分の算定状況は、施設区分全体では、「加算の算定あり」が62.6%、「加算の算定なし」が36.1%となっている。



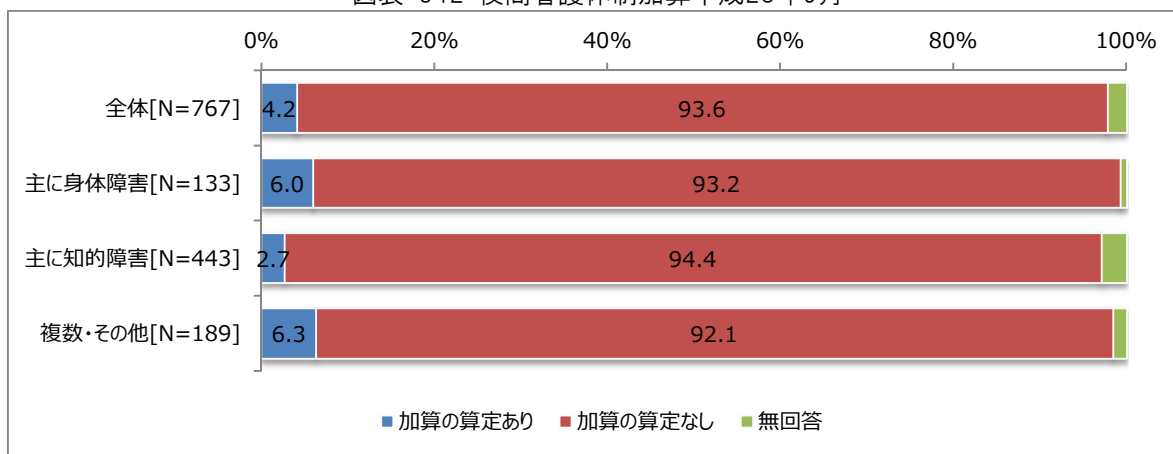
平成27年3月分の算定状況は、施設区分全体では、「加算の算定あり」が61.4%、「加算の算定なし」が37.3%となっている。



②夜間看護体制加算

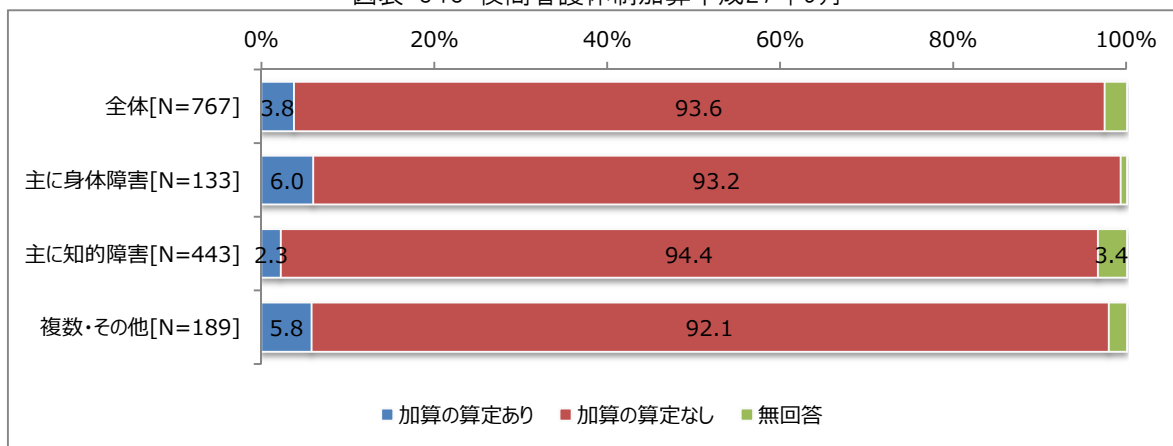
夜間看護体制加算について、平成28年9月分の算定状況は、施設区分全体では、「加算の算定なし」が93.6%、「加算の算定あり」が4.2%となっている。

図表 342 夜間看護体制加算平成28年9月



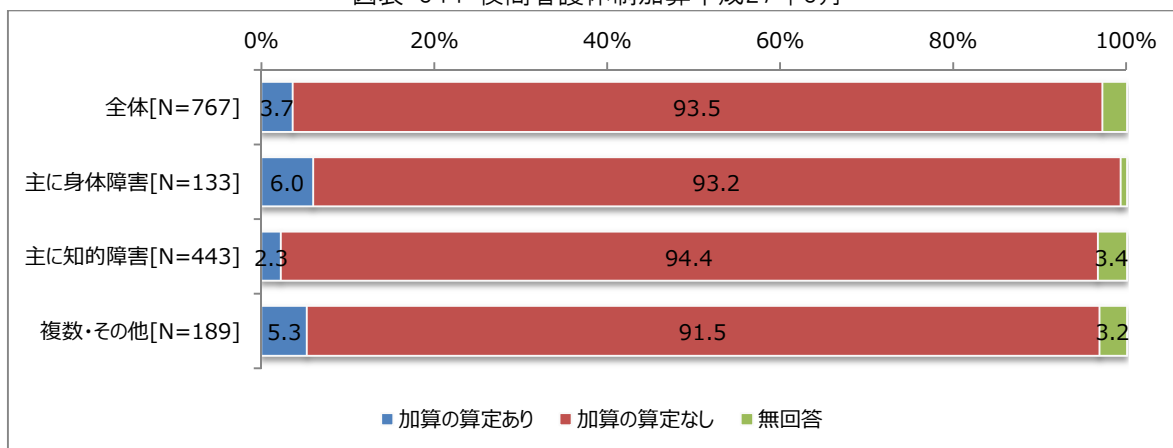
平成27年9月分の算定状況は、施設区分全体では、「加算の算定なし」が93.6%、「加算の算定あり」が3.8%となっている。

図表 343 夜間看護体制加算平成27年9月



平成27年3月分の算定状況は、施設区分全体では、「加算の算定なし」が93.5%、「加算の算定あり」が3.7%となっている。

図表 344 夜間看護体制加算平成27年3月



③施設入所支援時間帯の職員配置状況

平成28年9月29日夜から30日朝にかけての施設入所支援の時間帯における職員配置状況を聞いたところ、施設区分全体では、延べ職員数の平均は8.0人、うち生活支援員が6.6人、看護職員が0.4人、その他職員が1.0人となっている。また、延べ勤務時間の平均は2,920分、うち生活支援員の延べ勤務時間2,686分、看護職員の延べ勤務時間75分、その他職員の延べ勤務時間159分となっている。

図表 345 施設入所支援時間帯の職員

	全体[N=590]	主に身体障害 [N=109]	主に知的障害 [N=336]	複数・その他 [N=144]
延べ職員数(人)	8.0	7.9	8.4	7.1
うち生活支援員	6.6	6.3	7.0	5.9
うち、29日の昼間実施サービスを兼務した者	3.4	3.6	3.5	3.0
うち看護職員	0.4	0.7	0.4	0.4
うち、29日の昼間実施サービスを兼務した者	0.3	0.5	0.3	0.3
うちその他の職員(生活支援員、看護職員以外)	1.0	0.9	1.0	0.9
うち、29日の昼間実施サービスを兼務した者	0.7	0.7	0.7	0.6
延べ勤務時間(分)	2,920	3,051	3,054	2,507.4
うち生活支援員	2,686	2,756	2,812	2,338
うち、29日の昼間実施サービスを兼務した者	772	766	787	746
うち看護職員	75	168	50	66
うち、29日の昼間実施サービスを兼務した者	42	58	30	57
うちその他の職員(生活支援員、看護職員以外)	159	127	193	104
うち、29日の昼間実施サービスを兼務した者	99	88	104	97

平成28年9月29日夜から30日朝にかけての施設入所支援の時間帯における職員配置状況から、職員1人あたりの勤務時間(延べ勤務時間/延べ職員数)を見ると、施設区分全体では、平均は1人あたり366分となっている。職種別では、生活支援員408分、看護職員169分、その他職員166分となっている。

図表 346 施設入所支援時間帯の職員1人あたり勤務時間

	全体[N=590]	主に身体障害 [N=109]	主に知的障害 [N=336]	複数・その他 [N=144]
職員1人あたり勤務時間(分/人)	366	386	364	352
うち生活支援員	408	440	401	399
うち、29日の昼間実施サービスを兼務した者	228	210	226	250
うち看護職員	169	237	130	163
うち、29日の昼間実施サービスを兼務した者	129	117	111	179
うちその他の職員(生活支援員、看護職員以外)	166	137	192	120
うち、29日の昼間実施サービスを兼務した者	143	119	148	151

④施設入所支援時間帯のたん吸引等回数

平成28年9月29日夜から30日朝にかけての施設入所支援の時間帯におけるたん吸引等の実施回数を聞いたところ、施設区分全体では、たん吸引は、1施設あたりの平均で実利用者数0.3人、回数は1.1回となっている。実施者別では、看護師が0.5回、介護福祉士が0.4回、認定特定行為業務従事者が0.3回である。

経管栄養は、施設区分全体では、実利用者数0.7人、回数は1.2回となっている。実施者別では、看護師が0.7回、認定特定行為業務従事者が0.3回、介護福祉士が0.2回である。

図表 347 施設入所支援時間帯のたん吸引等回数

	全体[N=672]	主に身体障害 [N=125]	主に知的障害 [N=383]	複数・その他 [N=162]
たん吸引実利用者数（人）	0.3	1.2	0.0	0.4
回数（回）	1.1	4.2	0.1	1.0
うち、看護師が実施	0.5	1.6	0.1	0.5
うち、認定特定行為業務従事者が実施	0.3	1.1	0.0	0.3
うち、介護福祉士が実施	0.4	1.6	0.0	0.3
経管栄養実利用者数（人）	0.7	2.7	0.1	0.5
回数（回）	1.2	5.0	0.2	0.9
うち、看護師が実施	0.7	2.8	0.2	0.4
うち、認定特定行為業務従事者が実施	0.3	0.9	0.1	0.4
うち、介護福祉士が実施	0.2	1.3	0.0	0.0

⑤施設入所支援時間帯の業務実施回数

平成28年9月29日夜から30日朝にかけての施設入所支援の時間帯における、各業務の実施対象となる実利用者数、実施の延べ回数を聞いたところ、施設区分全体では、以下のようになっている。1施設あたりの平均で、服薬介助の利用者数が34.3人、回数が43.1回、排せつ介助の利用者数が21.2人、回数が47.6回、食事介助の利用者数が20.1人、回数が38.7回となっている。

図表 348 施設入所支援時間帯の業務実施回数

	全体[N=693]	主に身体障害 [N=118]	主に知的障害 [N=402]	複数・その他 [N=171]
食事介助	実利用者数（人）	20.1	21.9	22.0
	実施回数（回）	38.7	42.3	42.5
排せつ介助	実利用者数（人）	21.2	31.0	18.8
	実施回数（回）	47.6	92.8	37.9
服薬介助	実利用者数（人）	34.3	32.8	36.0
	実施回数（回）	43.1	46.9	46.2
体位交換	実利用者数（人）	4.0	11.3	1.4
	実施回数（回）	9.3	33.8	2.3
バイタルチェック	実利用者数（人）	16.9	11.5	19.4
	実施回数（回）	11.5	14.2	11.8
その他	実利用者数（人）	1.9	2.3	1.9
	実施回数（回）	2.6	3.0	2.3
巡視	実施回数（回）	6.0	5.3	6.2

前述の、平成28年9月29日夜から30日朝にかけての施設入所支援の時間帯における職員配置数（延べ職員数平均8.0人）を用いて、各業務の職員1人あたり実利用者数、延べ回数を見ると、施設区分全体では、服薬介助の職員1人あたり利用者数が4.3人、回数が5.4回、排せつ介助の利用者数が2.7人、回数が6.0回、食事介助の利用者数が2.5人、回数が4.8回となっている。

図表 349 施設入所支援時間帯の業務実施回数(職員1人あたり)

		全体[N=693]	主に身体障害 [N=118]	主に知的障害 [N=402]	複数・その他 [N=171]
食事介助	実利用者数(人)	2.5	2.8	2.6	2.0
	実施回数(回)	4.8	5.4	5.1	3.8
排せつ介助	実利用者数(人)	2.7	3.9	2.2	2.8
	実施回数(回)	6.0	11.7	4.5	5.1
服薬介助	実利用者数(人)	4.3	4.2	4.3	4.4
	実施回数(回)	5.4	5.9	5.5	4.6
体位交換	実利用者数(人)	0.5	1.4	0.2	0.7
	実施回数(回)	1.2	4.3	0.3	1.3
バイタルチェック	実利用者数(人)	2.1	1.5	2.3	2.0
	実施回数(回)	1.4	1.8	1.4	1.2
その他	実利用者数(人)	0.2	0.3	0.2	0.2
	実施回数(回)	0.3	0.4	0.3	0.4
巡視	実施回数(回)	0.8	0.7	0.7	0.8

⑥ 昼間サービス兼務職員の夜勤状況

平成28年9月における、昼間サービスを兼務する職員の夜勤状況については、施設区分全体では、1施設あたりで夜勤を行った生活支援員の実人数平均は23.8人、看護職員0.3人、その他職員0.3人となっている。また、夜勤の回数については、生活支援員の夜勤回数平均は76.6回、看護職員1.1回、その他職員0.8回となっている。

職員（実人数）1人あたりの平均夜勤回数を見ると、施設区分全体では、生活支援員の1人あたり平均回数は3.2回、看護職員は4.1回、その他職員は3.0回となっている。

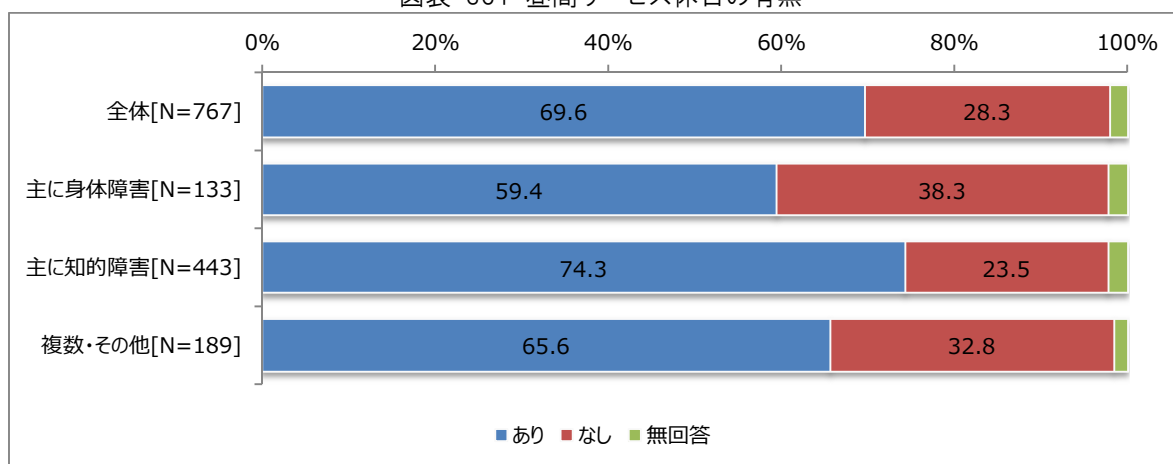
図表 350 昼間サービス兼務職員の夜勤状況

		全体[N=587]	主に身体障害 [N=97]	主に知的障害 [N=344]	複数・その他 [N=144]
夜勤を行った実人数(人)	生活支援員	23.8	21.1	25.2	22.4
	看護職員	0.3	0.4	0.2	0.4
	その他職員	0.3	0.0	0.4	0.2
夜勤を行った常勤換算人数(人)	生活支援員	21.2	18.8	22.6	19.8
	看護職員	0.4	0.6	0.3	0.5
	その他職員	0.9	0.3	1.3	0.5
夜勤を行った回数(回)	生活支援員	76.6	82.1	76.9	72.2
	看護職員	1.1	2.2	0.6	1.8
	その他職員	0.8	0.1	1.2	0.4
夜勤を行った職員(実人数)1人あたりの平均夜勤回数(回/人)	生活支援員	3.2	3.9	3.0	3.2
	看護職員	4.1	5.5	3.2	4.1
	その他職員	3.0	3.0	3.2	2.1

⑦ 昼間サービス休日の状況

平成28年9月26日（月）～10月2日（日）の一週間で、施設が昼間サービスを休んだ日の有無を聞いたところ、施設区分全体では、「あり」が69.6%、「なし」が28.3%となっている。

図表 351 昼間サービス休日の有無



昼間サービスの休日が「あり」と回答したところに、休日の職員配置を聞いたところ、施設区分全体では、実職員数で、1施設あたりの生活支援員の平均は11.9人、看護職員の平均は0.6人、その他職員の平均は1.4人となっている。

図表 352 昼間サービス休日の職員配置

(人)		全体[N=527]	主に身体障害 [N=76]	主に知的障害 [N=325]	複数・その他 [N=124]
実職員数	生活支援員	11.9	10.3	12.3	11.9
	看護職員	0.6	1.2	0.4	0.7
	その他職員	1.4	1.2	1.5	1.2
常勤換算数	生活支援員	11.0	9.6	11.4	10.9
	看護職員	0.5	1.1	0.3	0.7
	その他職員	1.2	1.0	1.4	1.0

昼間サービス休日の入所者の活動について、主な活動内容別の延べ人数を聞いたところ、施設区分全体では、「居室内での静養」が平均26.1人、「施設内での余暇活動（地域住民との交流会等）」が平均23.4人、「昼間実施サービスと同様の活動」が平均21.6人等となっている。

図表 353 昼間サービス休日の入所者の活動内容別人数

(人)	全体[N=526]	主に身体障害 [N=78]	主に知的障害 [N=324]	複数・その他 [N=122]
一時帰宅	4.8	2.5	5.3	4.9
通院	0.4	0.8	0.4	0.3
施設外での余暇活動（余暇としての買物や散歩等）	10.0	4.6	11.8	8.9
施設内での余暇活動（地域住民との交流会等）	23.4	7.1	20.8	41.0
昼間実施サービスと同様の活動	21.6	31.0	16.3	30.0
居室内での静養	26.1	28.4	25.7	26.3
その他	9.5	2.3	11.9	7.4

(5) 入所者の高齢化等の状況

①加齢による心身機能低下者数

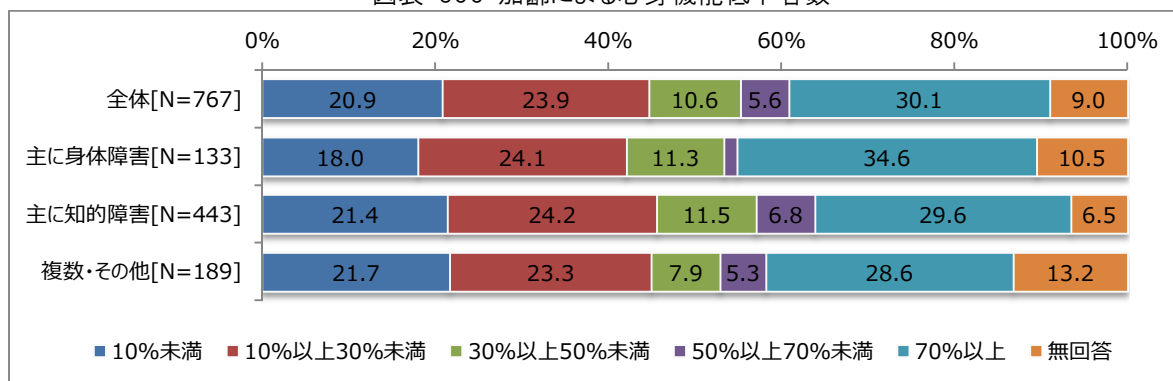
入所者に、加齢による心身機能の低下している者がいるかどうかを聞いたところ、施設区分全体では、1施設あたりの該当者平均人数は26.5人となっている。うち、強度行動障害を有する者の平均人数は4.7人、重症心身障害児者の平均人数は1.9人、医療的ケアを要する者の平均人数は4.9人となっている。

図表 354 加齢による心身機能低下者数

(人)		全体[N=737]	主に身体障害 [N=125]	主に知的障害 [N=430]	複数・その他 [N=180]
該当者総数	40歳未満	3.5	1.4	4.4	2.7
	40～49歳	5.3	3.6	6.3	4.0
	50～64歳	9.4	11.3	8.6	10.0
	65歳以上	8.2	10.8	6.6	10.3
	合計	26.5	27.1	26.0	27.0
うち、強度行動障害を有する者	40歳未満	1.1	0.0	1.6	0.8
	40～49歳	1.5	0.1	2.2	0.9
	50～64歳	1.4	0.4	1.7	1.1
	65歳以上	0.7	0.3	0.8	0.7
	合計	4.7	0.8	6.4	3.4
うち、重症心身障害者	40歳未満	0.2	0.3	0.1	0.2
	40～49歳	0.3	0.7	0.2	0.3
	50～64歳	0.8	1.7	0.5	0.8
	65歳以上	0.6	1.4	0.3	0.8
	合計	1.9	4.1	1.2	2.2
うち、医療的ケアを要する者	40歳未満	0.4	0.3	0.5	0.2
	40～49歳	0.8	0.9	0.8	0.5
	50～64歳	1.8	3.4	1.6	1.1
	65歳以上	2.0	3.5	1.2	2.7
	合計	4.9	8.1	4.2	4.5

各施設について、入所実人数に対する加齢による心身機能低下者の割合を見たところ、施設区分全体では、「70%以上」という施設が30.1%である一方、「10%以上30%未満」が23.9%、「10%未満」が20.9%となっている。

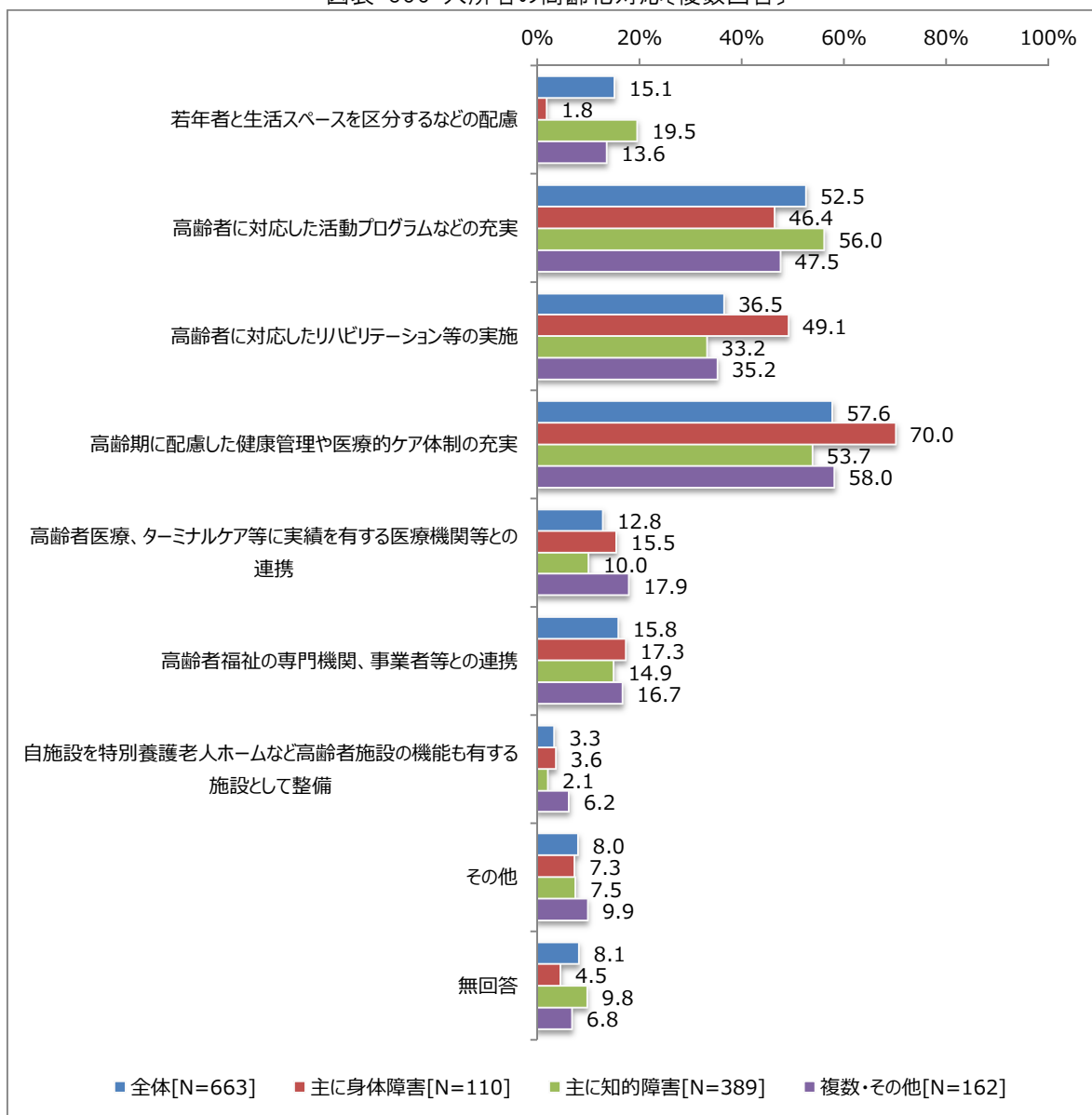
図表 355 加齢による心身機能低下者数



②入所者の高齢化対応

加齢による心身機能低下者のいる施設に、入所者の高齢化への対応状況を聞いたところ、施設区分全体では、「高齢期に配慮した健康管理や医療的ケア体制の充実」が57.6%、「高齢者に対応した活動プログラムなどの充実」が52.5%、「高齢者に対応したリハビリテーション等の実施」が36.5%となっている。

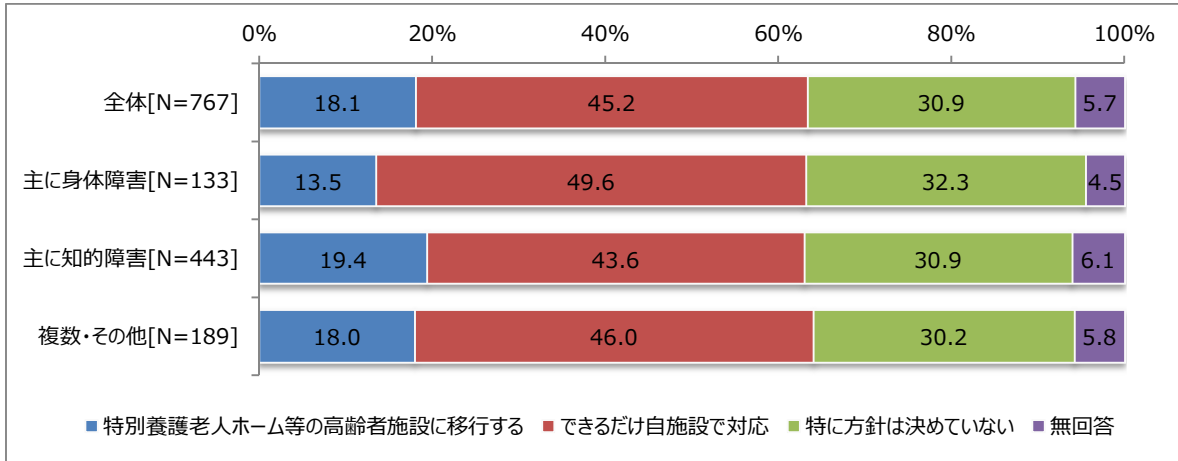
図表 356 入所者の高齢化対応〔複数回答〕



③高齡化対応の方針

入所者の高齡化に対する方針としては、施設区分全体では、「できるだけ自施設で対応」が45.2%、「特に方針は決めていない」が30.9%、「特別養護老人ホーム等の高齡者施設に移行する」が18.1%となっている。

図表 357 高齡化対応の方針



④高齡者施設移行人数・待機者数

平成27年10月～平成28年9月の1年間での高齡者施設等への入所者の移行人数を聞いたところ、施設区分全体では、平均0.2人となっている。また、高齡者施設等への入所待機者となっている入所者の人数を聞いたところ、平均0.6人となっている。

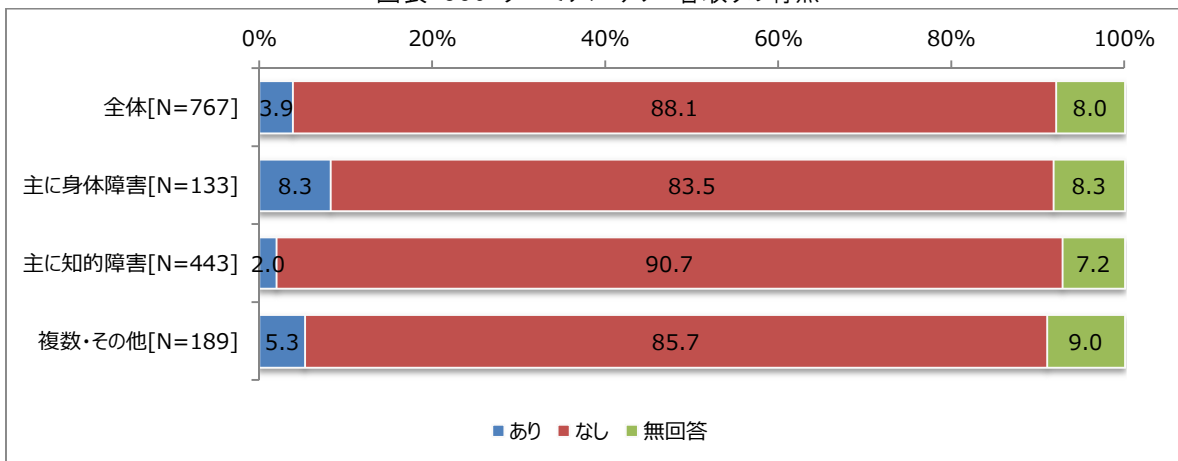
図表 358 高齡者施設移行人数・待機者数

(人)	全体[N=707]	主に身体障害 [N=124]	主に知的障害 [N=409]	複数・その他 [N=172]
高齡者施設への移行人数	0.2	0.1	0.2	0.2
高齡者施設の入所待機者数	0.6	0.2	0.3	1.8

⑤ターミナルケア・看取りの有無

施設での平成27年10月～平成28年9月の1年間のターミナルケア・看取りの有無について聞いたところ、施設区分全体では、「なし」が88.1%、「あり」が3.9%となっている。

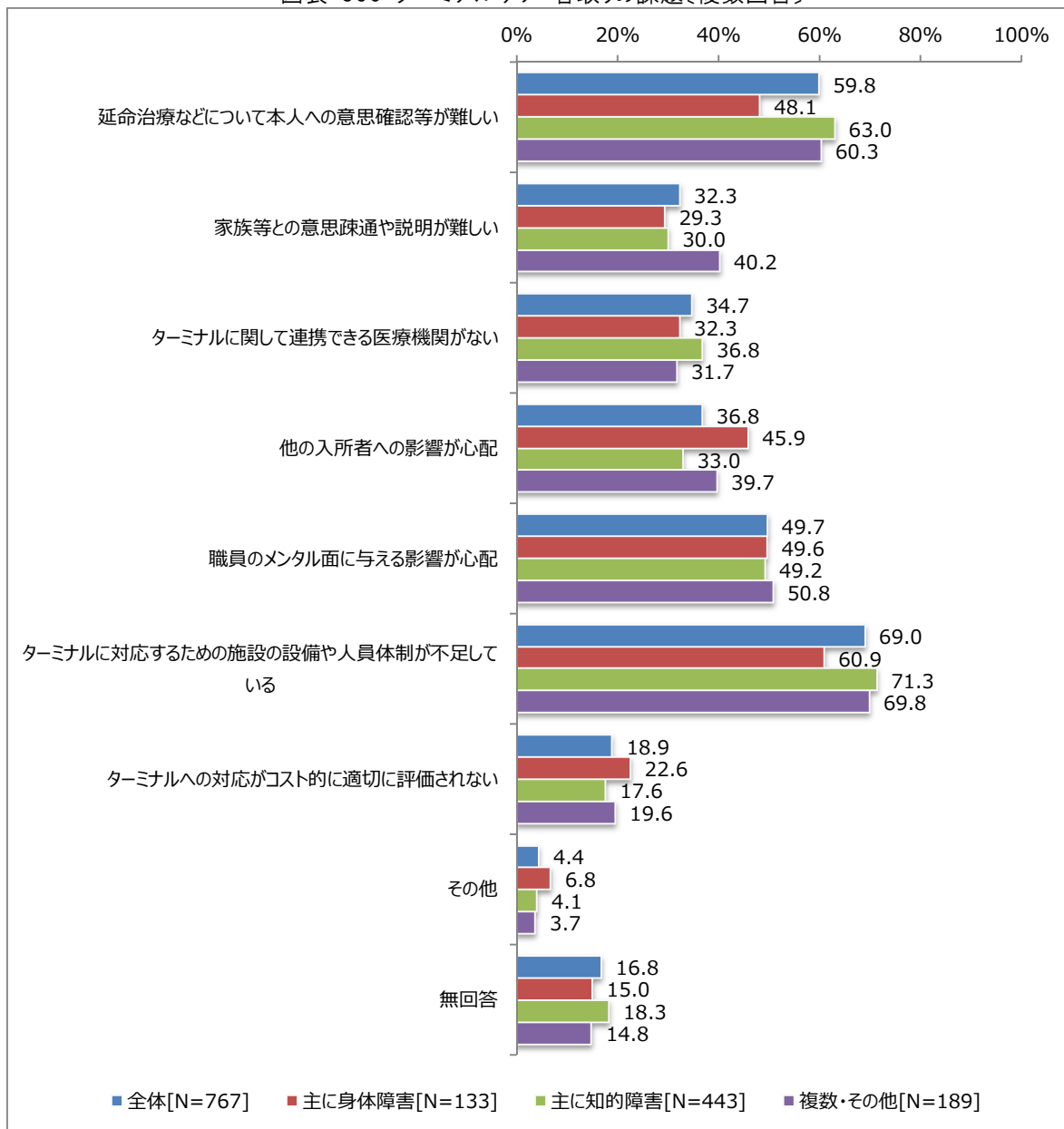
図表 359 ターミナルケア・看取りの有無



⑥ターミナルケア・看取りの課題

施設でターミナルケア・看取りを実施する際の課題については、施設区分全体では、「ターミナルに対応するための施設の設備や人管理体制が不足している」が69.0%、「延命治療などについて本人への意思確認等が難しい」が59.8%、「職員のメンタル面に与える影響が心配」が49.7%、「他の入所者への影響が心配」が36.8%となっている。

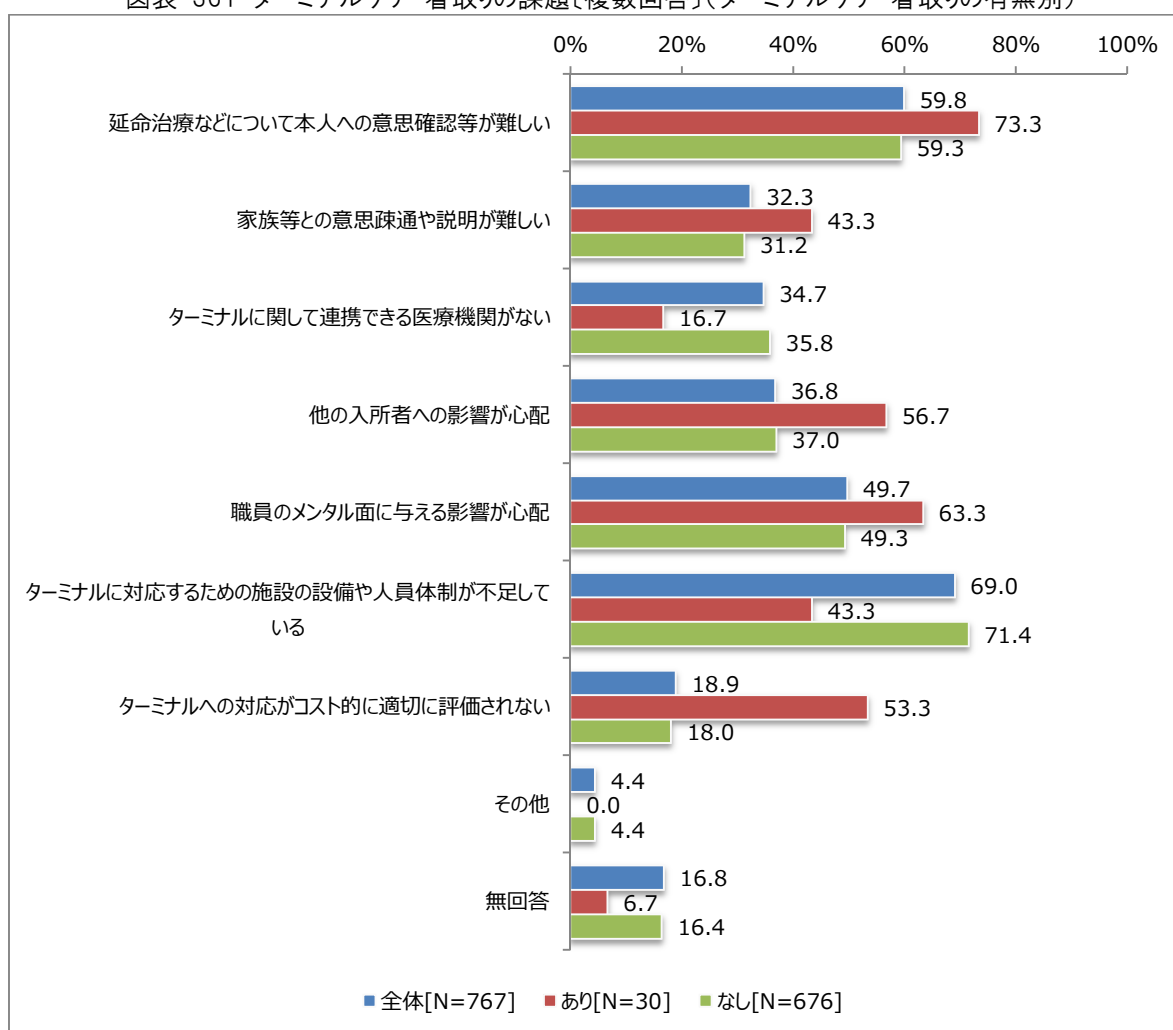
図表 360 ターミナルケア・看取りの課題〔複数回答〕



平成27年10月～平成28年9月の1年間のターミナルケア・看取りの有無別で、ターミナルケア・看取りを実施する際の課題を見ると、ターミナルケア・看取り「あり」の施設では、「延命治療などについて本人への意思確認等が難しい」が73.3%、「職員のメンタル面に与える影響が心配」が63.3%、「他の入所者への影響が心配」が56.7%となっている。

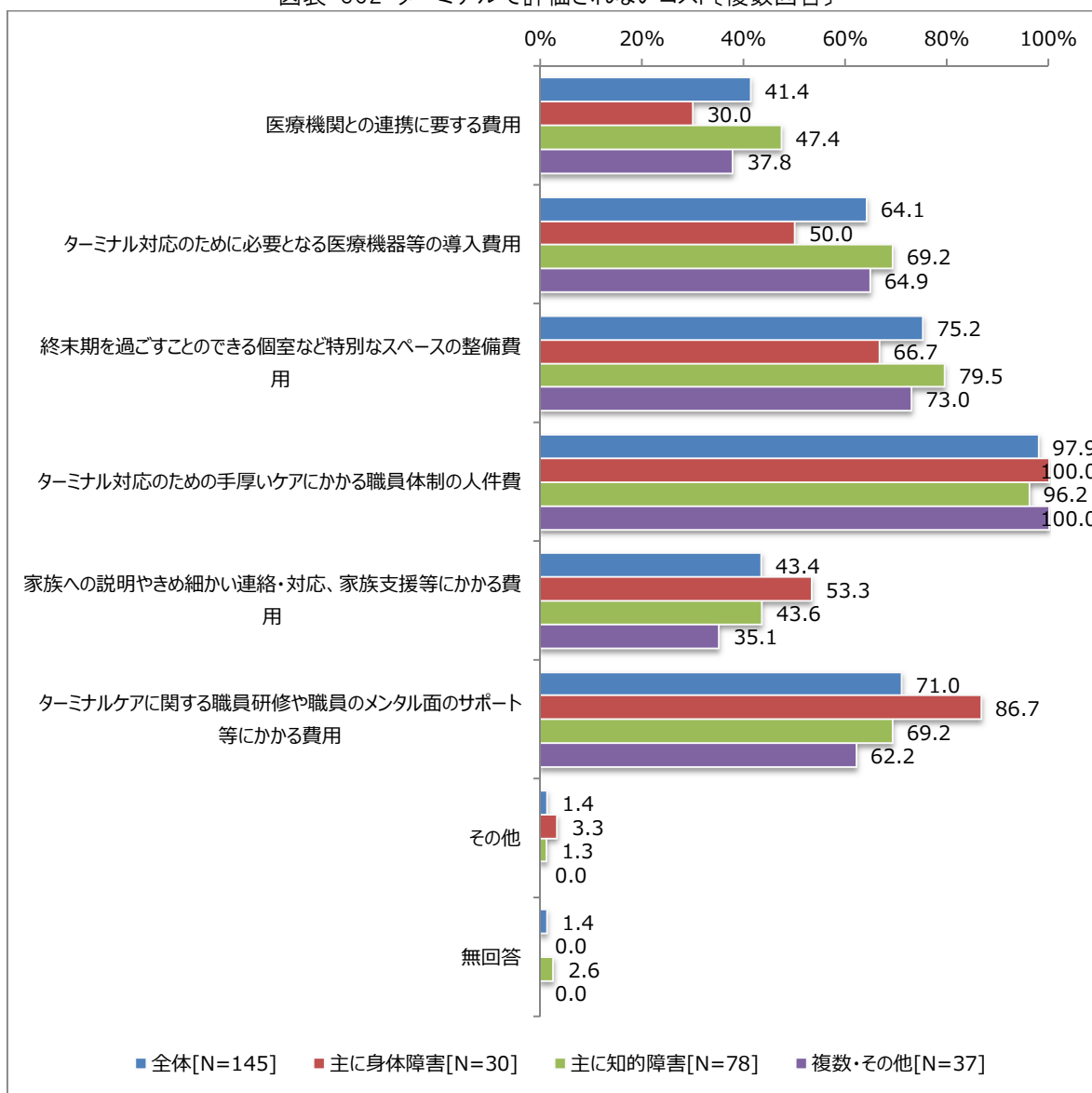
ターミナルケア・看取り「あり」と「なし」の施設の回答割合を比較すると、ターミナルケア・看取り「なし」の施設では、「ターミナルに対応するための施設の設備や人員体制が不足している」「ターミナルに関して連携できる医療機関がない」について、「あり」の施設に比べて回答割合が高くなっている。一方、ターミナルケア・看取り「あり」の施設では、「延命治療などについて本人への意思確認等が難しい」「職員のメンタル面に与える影響が心配」「他の入所者への影響が心配」「ターミナルへの対応がコスト的に適切に評価されない」「家族等との意思疎通や説明が難しい」をあげる割合が、「なし」の施設に比べて高くなっている。

図表 361 ターミナルケア・看取りの課題〔複数回答〕(ターミナルケア・看取りの有無別)



ターミナルケア・看取りを実施する際の課題について、「ターミナルへの対応がコスト的に適切に評価されない」と回答したところに、評価されないコストの内容を聞いたところ、施設区分全体では、「ターミナル対応のための手厚いケアにかかる職員体制の人件費」が97.9%、「終末期を過ごすことのできる個室など特別なスペースの整備費用」75.2%、「ターミナルケアに関する職員研修や職員のメンタル面のサポート等にかかる費用」71.0%となっている。

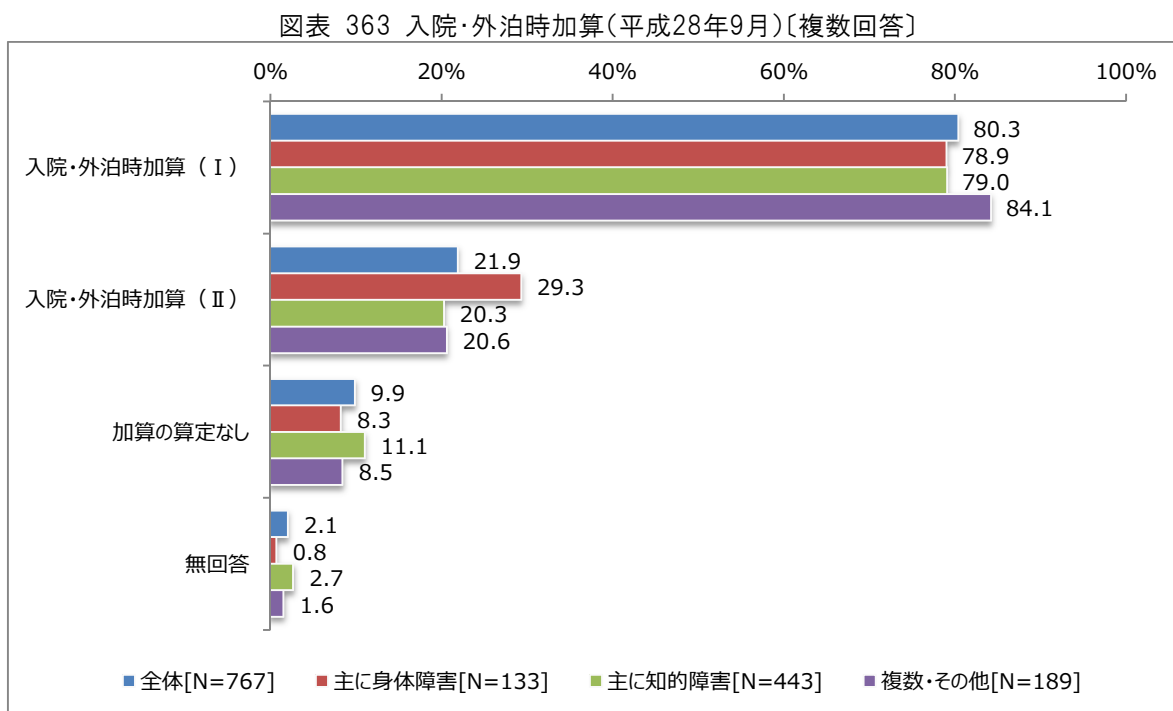
図表 362 ターミナルで評価されないコスト〔複数回答〕



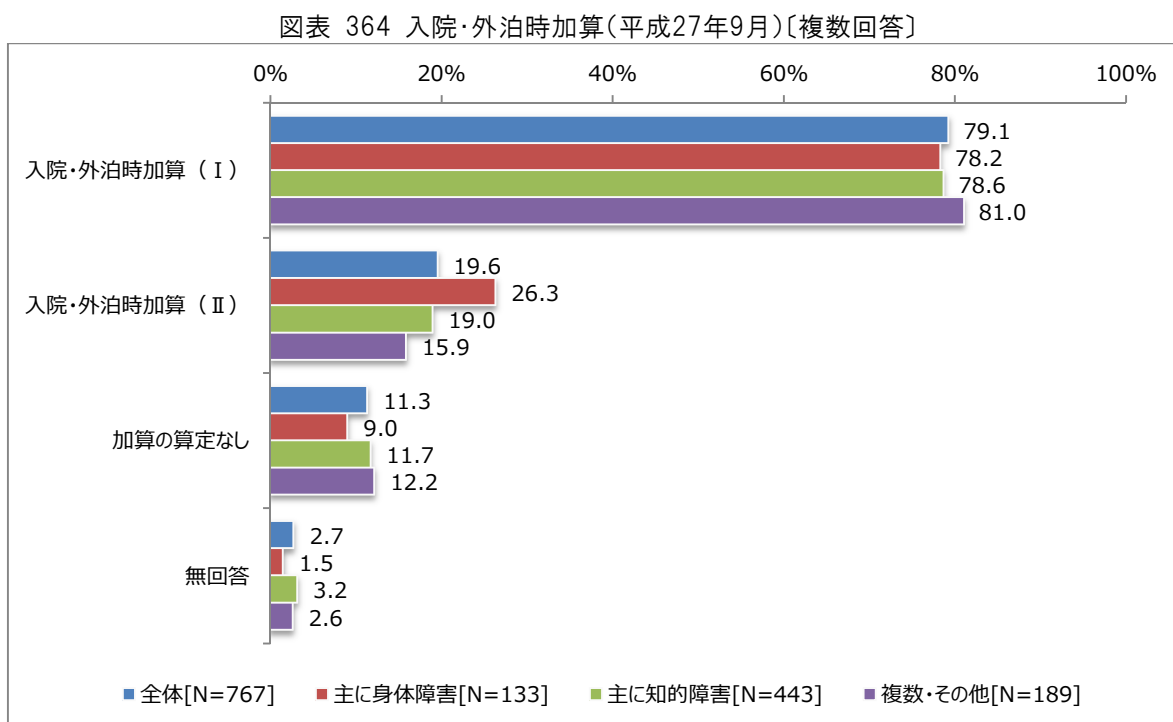
(6) 入院・外泊について

①入院・外泊時加算

入院・外泊時加算の算定状況については、平成28年9月分の算定状況は、施設区分全体では、「入院・外泊時加算（Ⅰ）」が80.3%、「入院・外泊時加算（Ⅱ）」が21.9%、「加算の算定なし」が9.9%となっている。

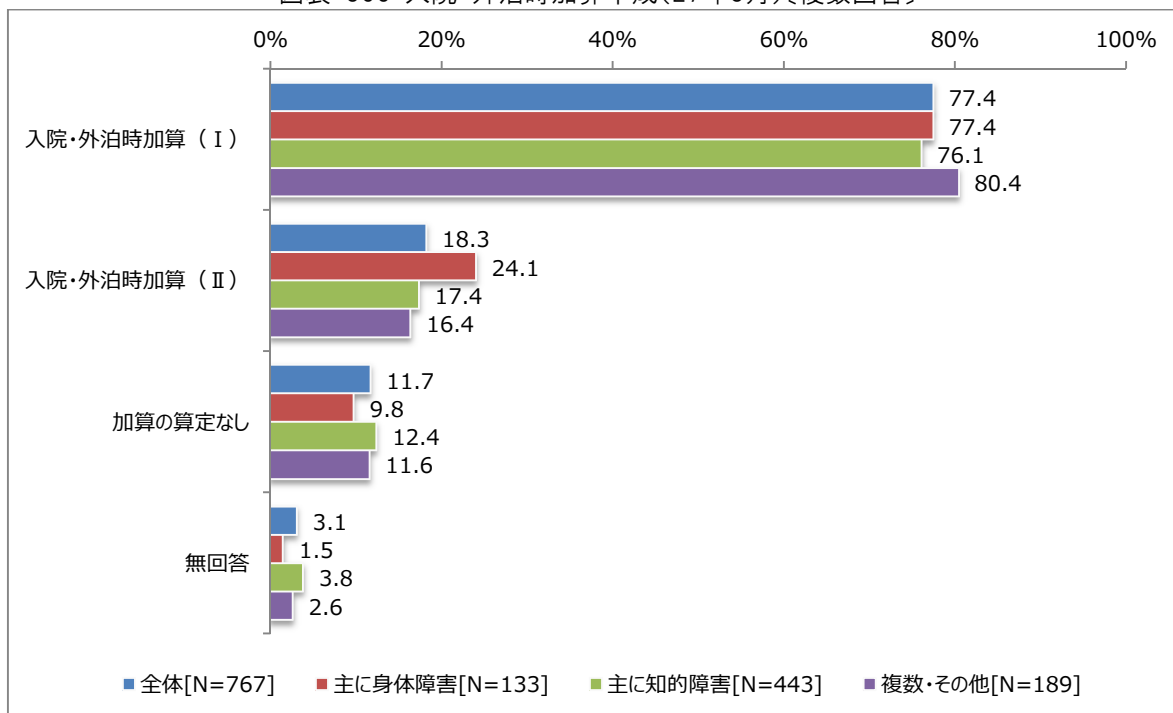


平成27年9月分の算定状況は、施設区分全体では、「入院・外泊時加算（Ⅰ）」が79.1%、「入院・外泊時加算（Ⅱ）」が19.6%、「加算の算定なし」が11.3%となっている。



平成27年3月分の算定状況は、施設区分全体では、「入院・外泊時加算（Ⅰ）」が77.4%、「入院・外泊時加算（Ⅱ）」が18.3%、「加算の算定なし」が11.7%となっている。

図表 365 入院・外泊時加算平成(27年3月)[複数回答]

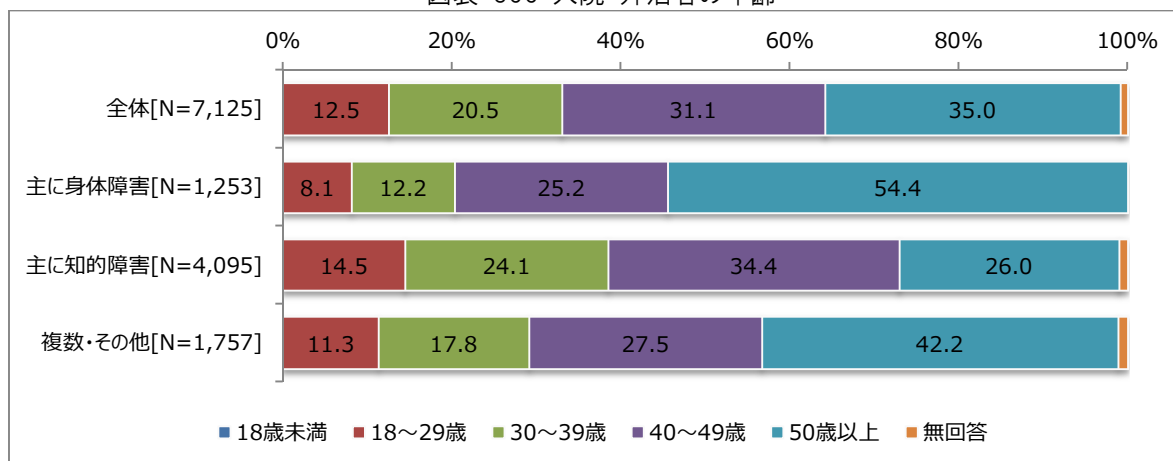


②入院・外泊をした入所者の状況

入院・外泊をした入所者の状況を聞いたところ、合計で7,125人分の回答があった。

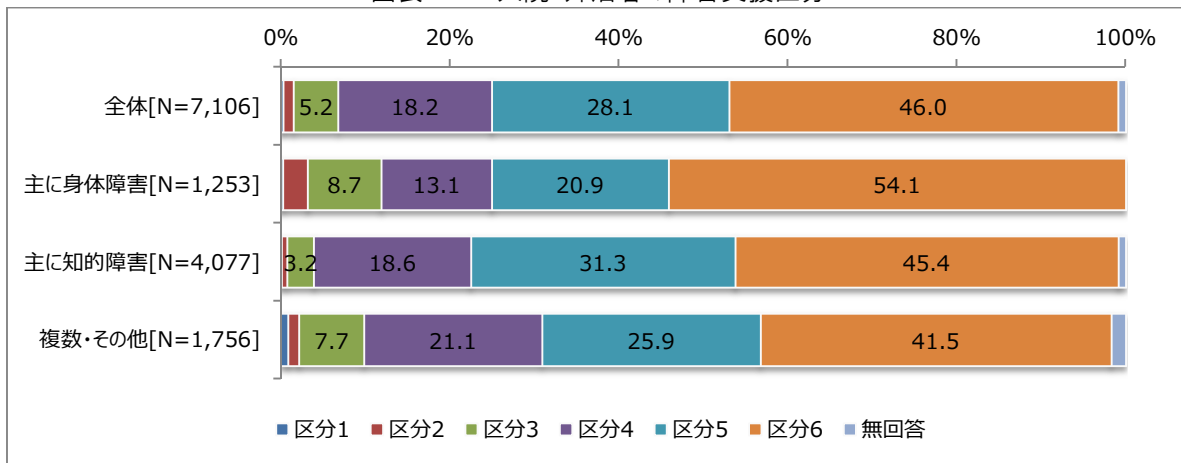
年齢については、施設区分全体では、「50歳以上」が35.0%、「40～49歳」が31.1%、「30～39歳」が20.5%となっている。

図表 366 入院・外泊者の年齢



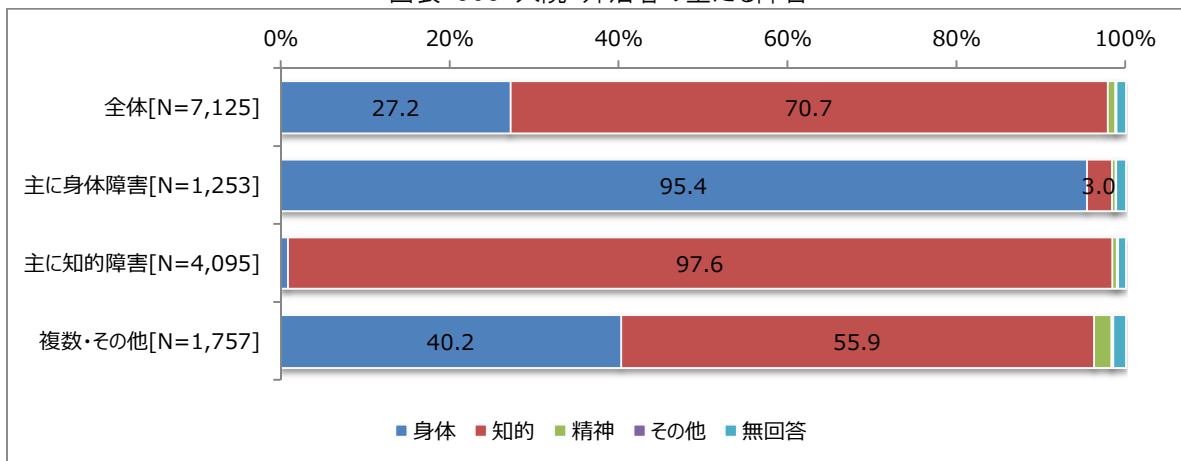
障害支援区分は、施設区分全体では、「区分6」が46.0%、「区分5」が28.1%、「区分4」が18.2%となっている。

図表 367 入院・外泊者の障害支援区分



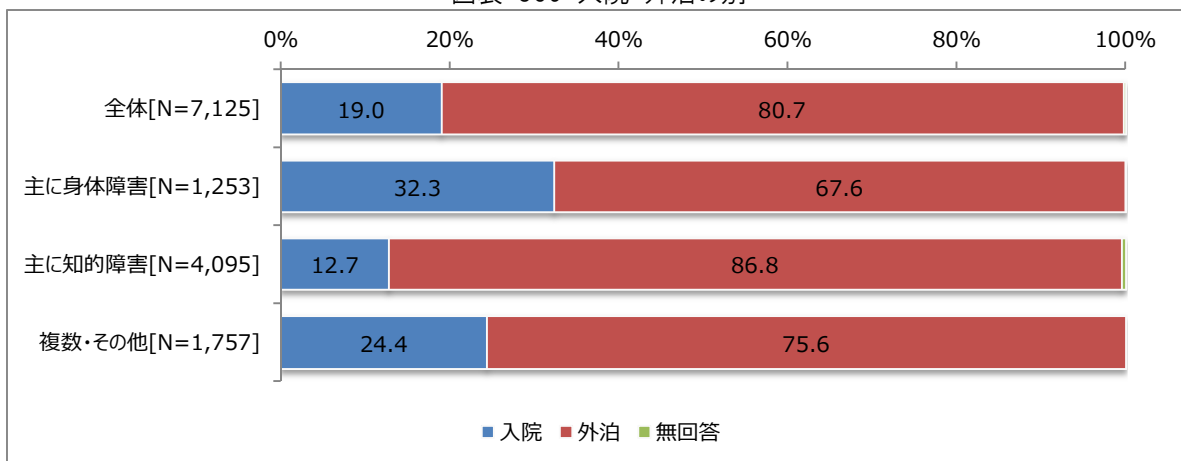
主たる障害種別は、施設区分全体では、「知的」が70.7%を占める。

図表 368 入院・外泊者の主たる障害



入院・外泊の別については、施設区分全体では、「外泊」が80.7%、「入院」が19.0%となっている。

図表 369 入院・外泊の別



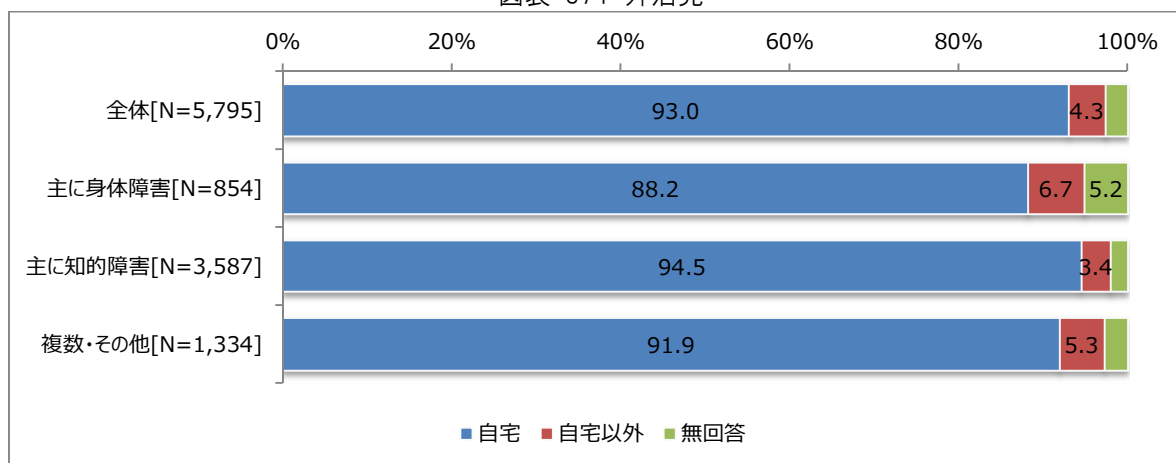
入院・外泊の期間の平均は、施設区分全体では、6.5日となっている。

図表 370 入院・外泊の期間

	全体[N=6,818]	主に身体障害 [N=1,207]	主に知的障害 [N=3,915]	複数・その他 [N=1,676]
平均	6.5	9.1	5.3	7.3

外泊をした者について、外泊先を聞いたところ、施設区分全体では、「自宅」が93.0%、「自宅以外」が4.3%となっている。

図表 371 外泊先

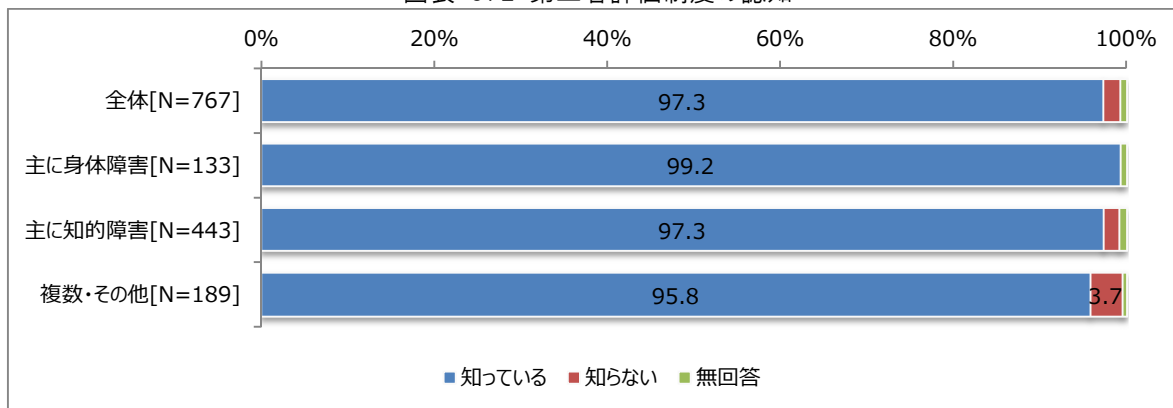


(7) 第三者評価について

① 第三者評価制度の認知状況

第三者評価制度の認知状況については、施設区分全体では、「知っている」が97.3%と多くを占めている。

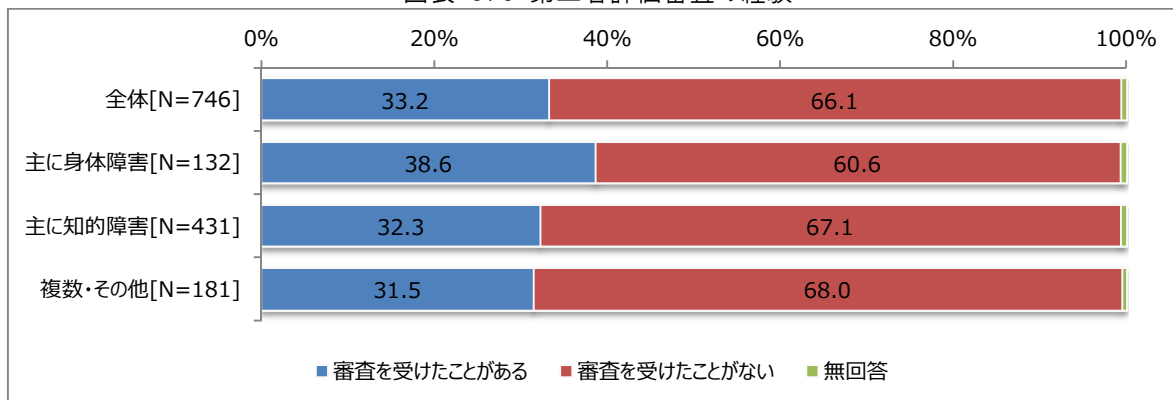
図表 372 第三者評価制度の認知



② 第三者評価の審査経験・希望

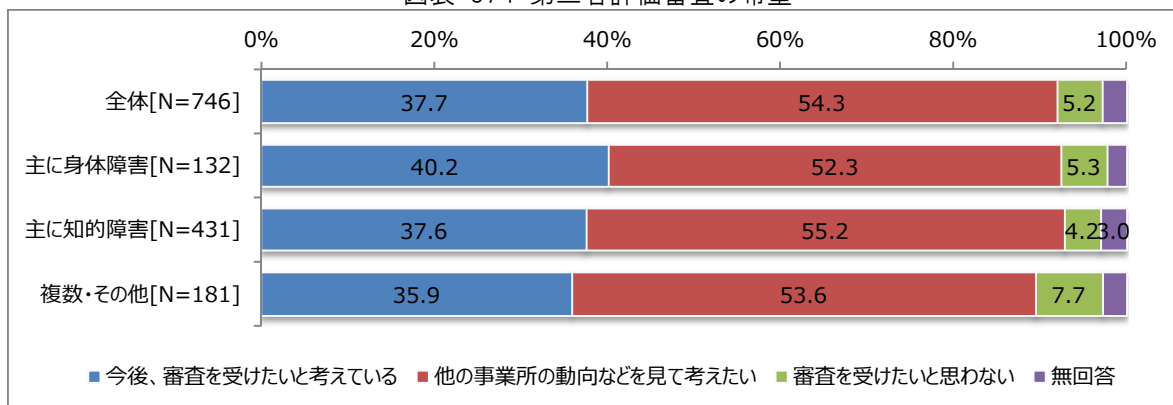
第三者評価制度を知っていると回答したところに、第三者評価の審査経験を聞いたところ、施設区分全体では、「審査を受けたことがない」が66.1%、「審査を受けたことがある」が33.2%となっている。

図表 373 第三者評価審査の経験



第三者評価審査の希望については、施設区分全体では、「他の事業所の動向などを見て考えたい」が54.3%、「今後、審査を受けたいと考えている」が37.7%となっている。

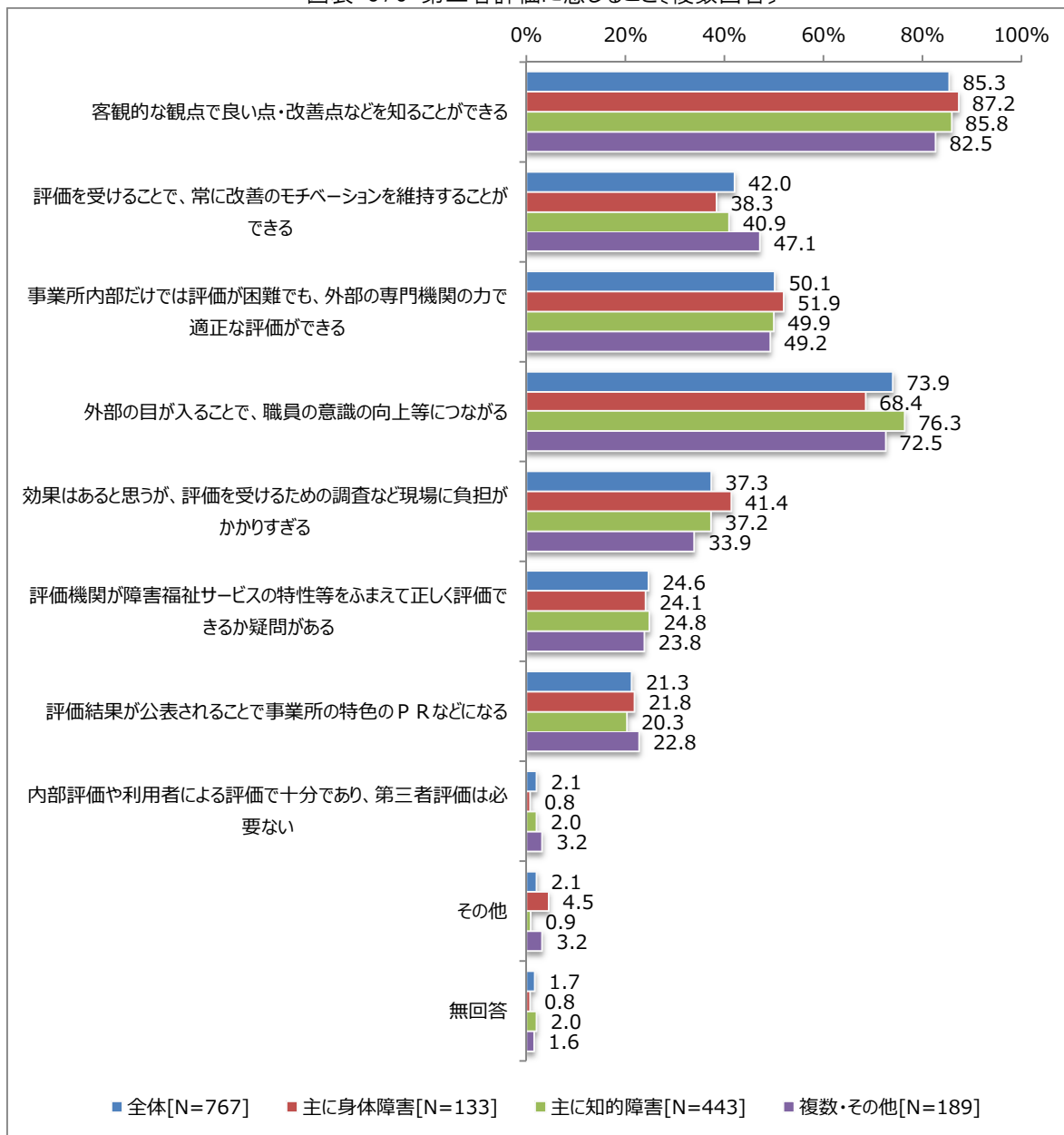
図表 374 第三者評価審査の希望



③第三者評価を受けることについての意識

第三者評価を受けることについて、どう感じるかを聞いたところ、施設区分全体では、「客観的な観点で良い点・改善点などを知ることができる」が85.3%と最も高い割合となっており、次いで、「外部の目が入ることで、職員の意識の向上等につながる」が73.9%、「事業所内部だけでは評価が困難でも、外部の専門機関の力で適正な評価ができる」が50.1%と続いている。

図表 375 第三者評価に感じること〔複数回答〕



【利用者票の結果】

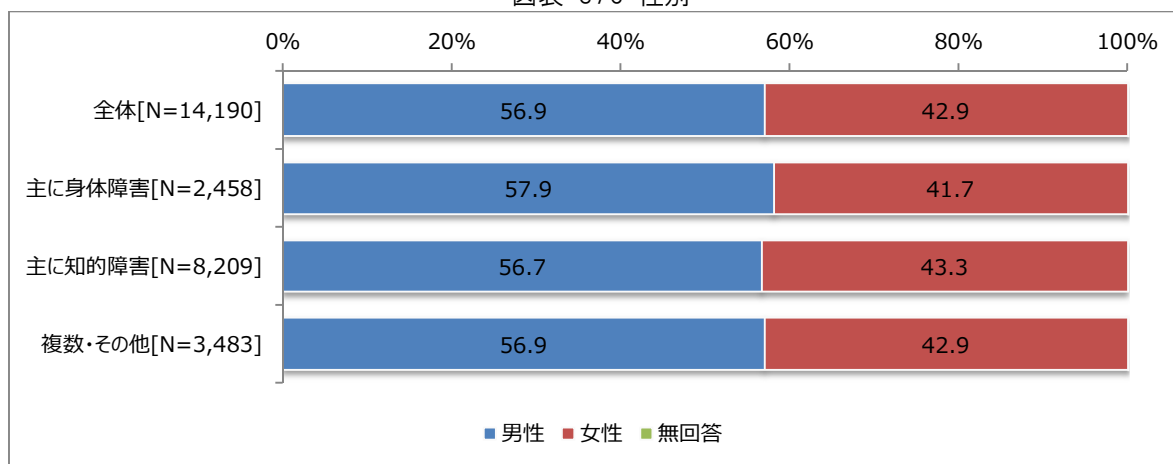
(8) 利用者の状況

平成28年9月における施設利用者の状況を聞いたところ、合計で14,190人分の回答があった。回答があった者の状況は以下の通りである。

①性別

性別は、施設区分全体では、「男性」が56.9%、「女性」が42.9%となっている。

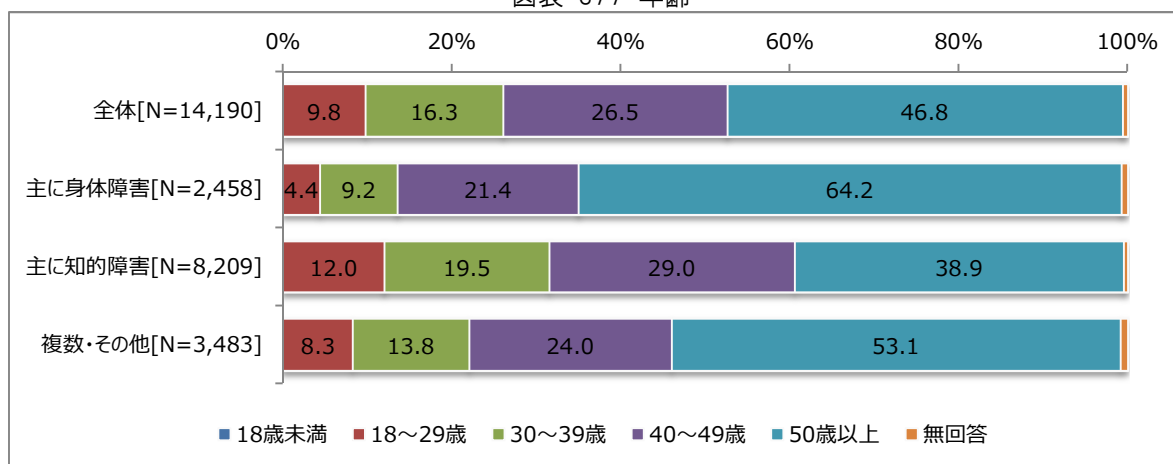
図表 376 性別



②年齢

年齢は、施設区分全体では、「50歳以上」が46.8%、「40～49歳」が26.5%、「30～39歳」が16.3%等となっている。なお、平均年齢は、施設区分全体で49.3歳、施設区分別では、主に身体障害54.8歳、主に知的障害46.7歳、複数・その他51.5歳である。

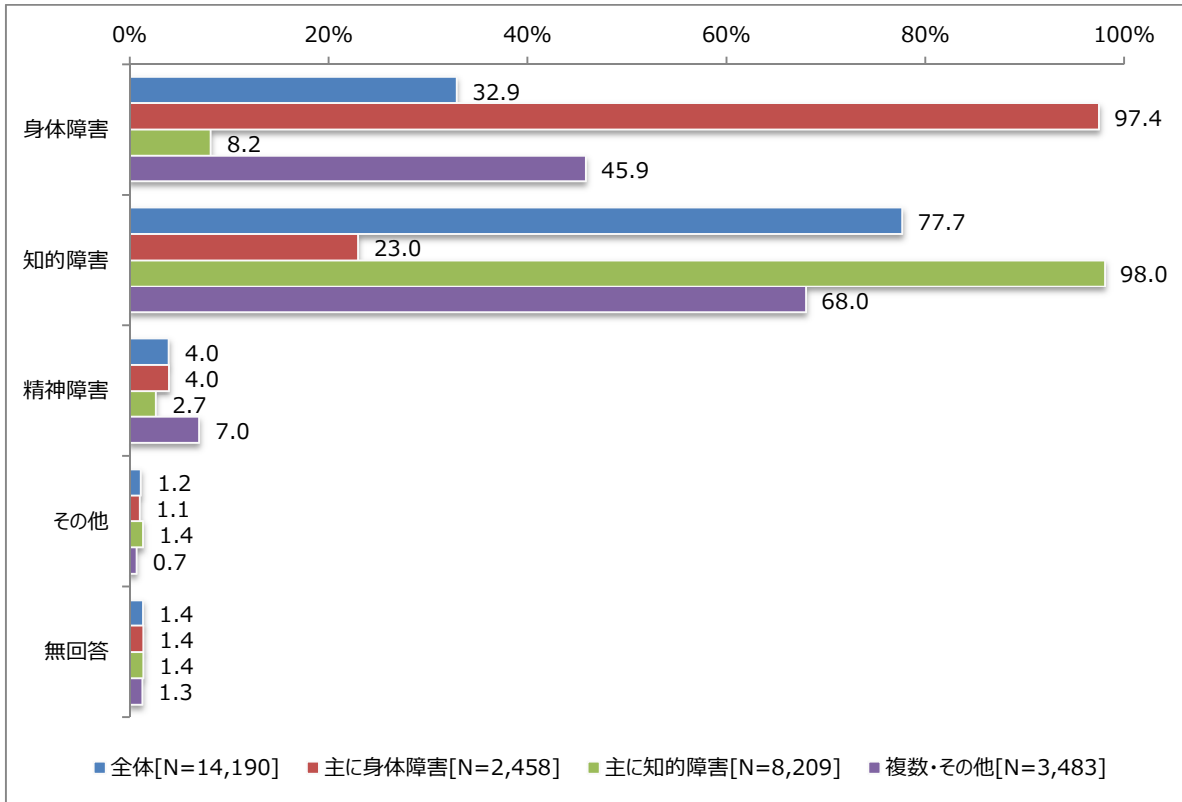
図表 377 年齢



③障害種別

障害種別は、施設区分全体では、「知的障害」が77.7%、「身体障害」が32.9%となっている。

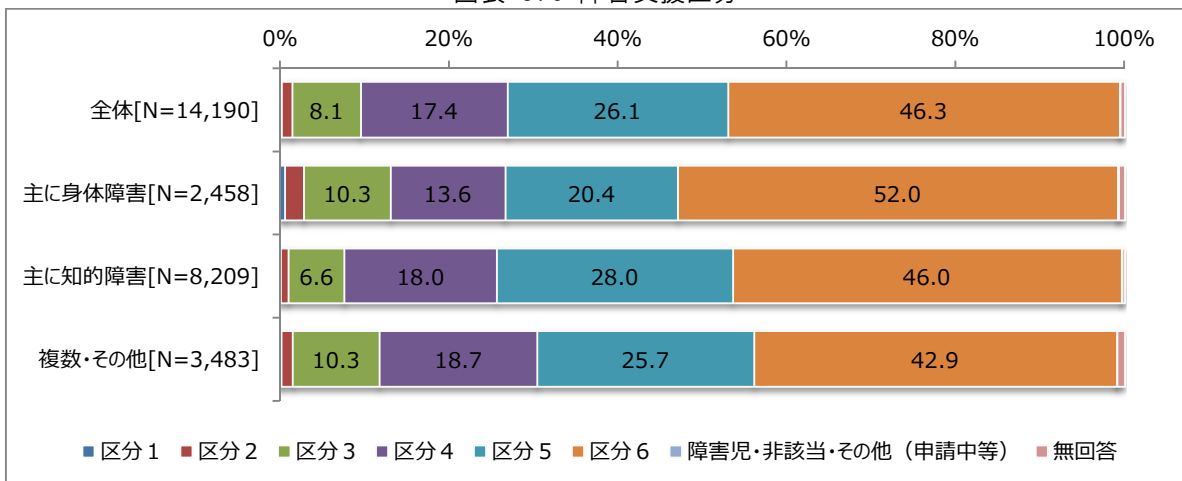
図表 378 障害種別〔複数回答〕



④障害支援区分

入所者の障害支援区分は、施設区分全体では、「区分6」が46.3%、「区分5」が26.1%、「区分4」が17.4%となっている。なお、平均障害支援区分（区分なしを除く平均値）は、施設区分全体で5.1、施設区分別では、主に身体障害5.1、主に知的障害5.1、複数・その他5.0である。

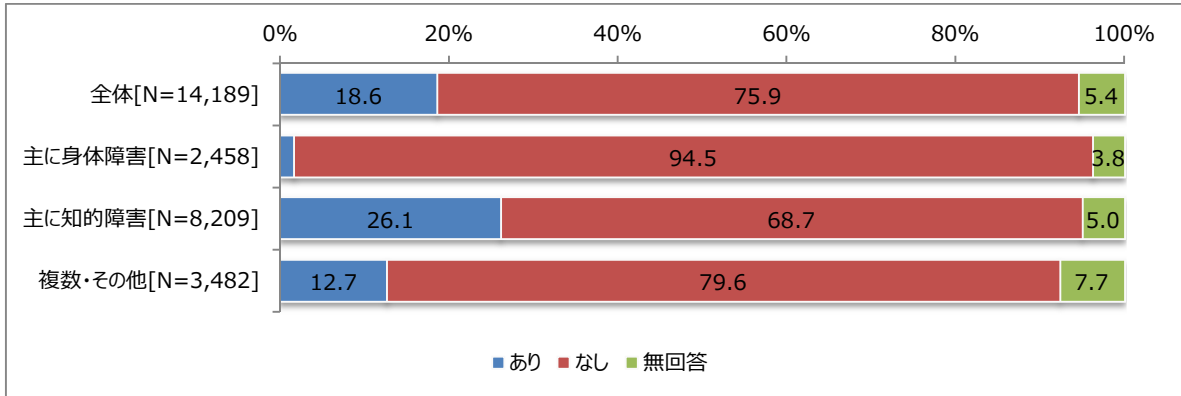
図表 379 障害支援区分



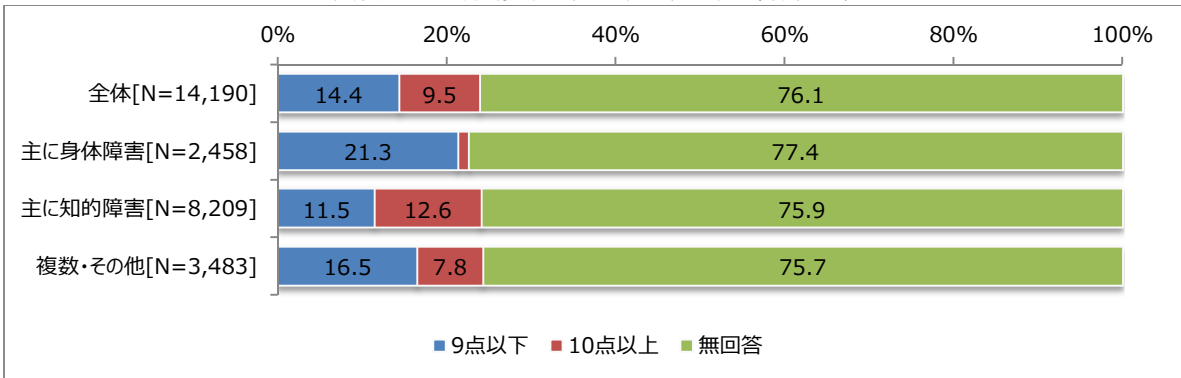
⑤強度行動障害の有無

入所者の強度行動障害の有無について聞いたところ、施設区分全体では、「あり」が18.6%となっている。なお、障害支援区分認定調査項目の行動関連項目（12項目）の合計点数を聞いたところ、10点以上の入所者は9.5%となっている（点数平均は7.5）。

図表 380 強度行動障害の有無



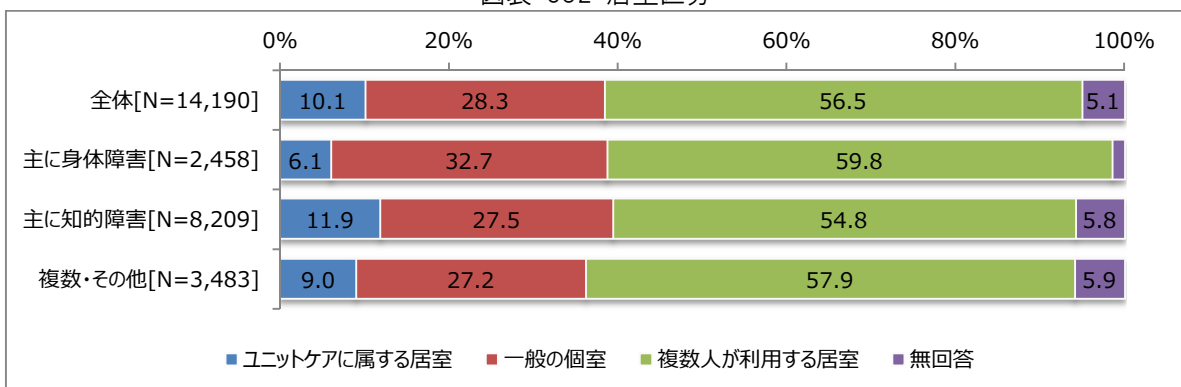
図表 381 行動関連項目(12項目)の合計点数



⑥居室区分

入所者の居室区分は、施設区分全体では、「複数人が利用する居室」が56.5%、「一般の個室」が28.3%、「ユニットケアに属する居室」が10.1%となっている。

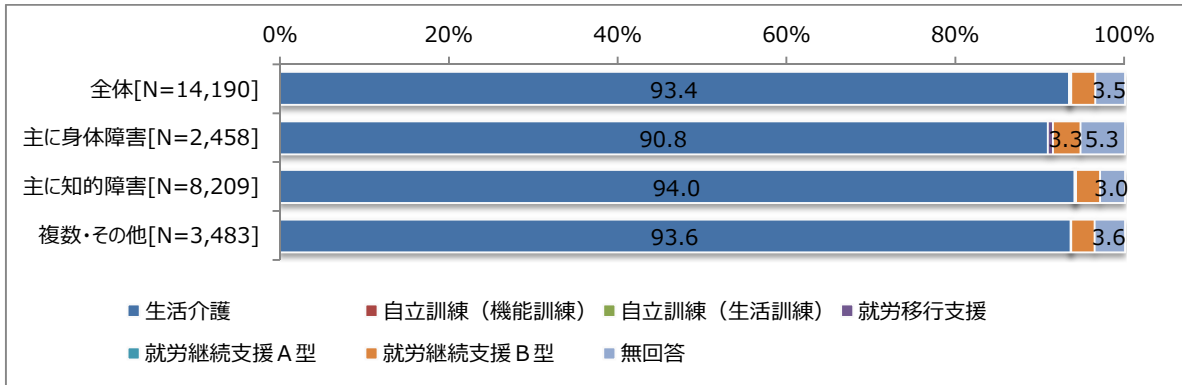
図表 382 居室区分



⑦ 昼間の利用サービス

昼間の利用サービスについては、施設区分全体では、「生活介護」が93.4%とほとんどを占める。

図表 383 昼間の利用サービス



⑧ 昼間サービスの利用日数

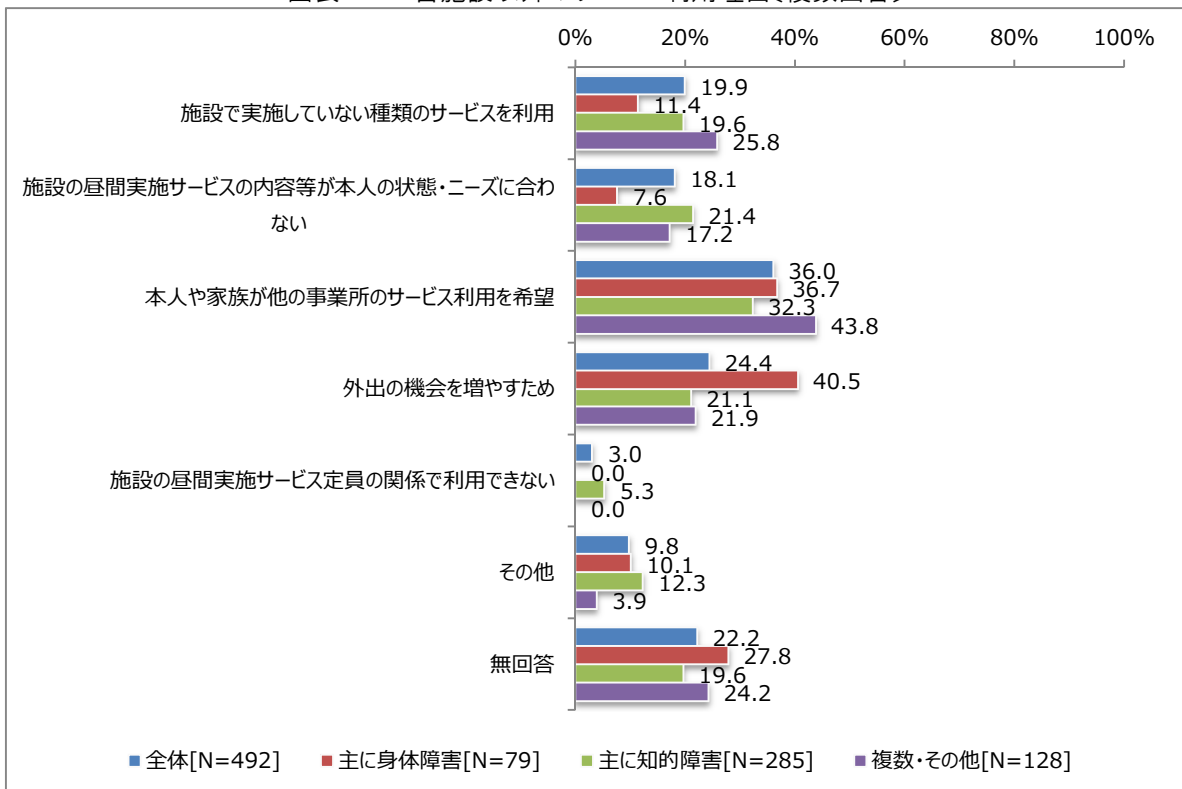
昼間サービスの利用日数を聞いたところ、施設区分全体では、自施設のサービス利用の平均は22.0日、自施設以外のサービス利用の平均は0.5日となっている。

図表 384 昼間サービス利用日数(平均)

(日)	全体 [N=14,026]	主に身体障害 [N=2,401]	主に知的障害 [N=8,127]	複数・その他 [N=3,458]
自施設の利用日数平均	22.0	22.6	21.9	21.7
自施設以外の利用日数平均	0.5	0.4	0.5	0.6

自施設以外の昼間サービスを利用している人の、利用理由を聞いたところ、施設区分全体では、「本人や家族が他の事業所のサービス利用を希望」が36.0%、「外出の機会を増やすため」が24.4%となっている。

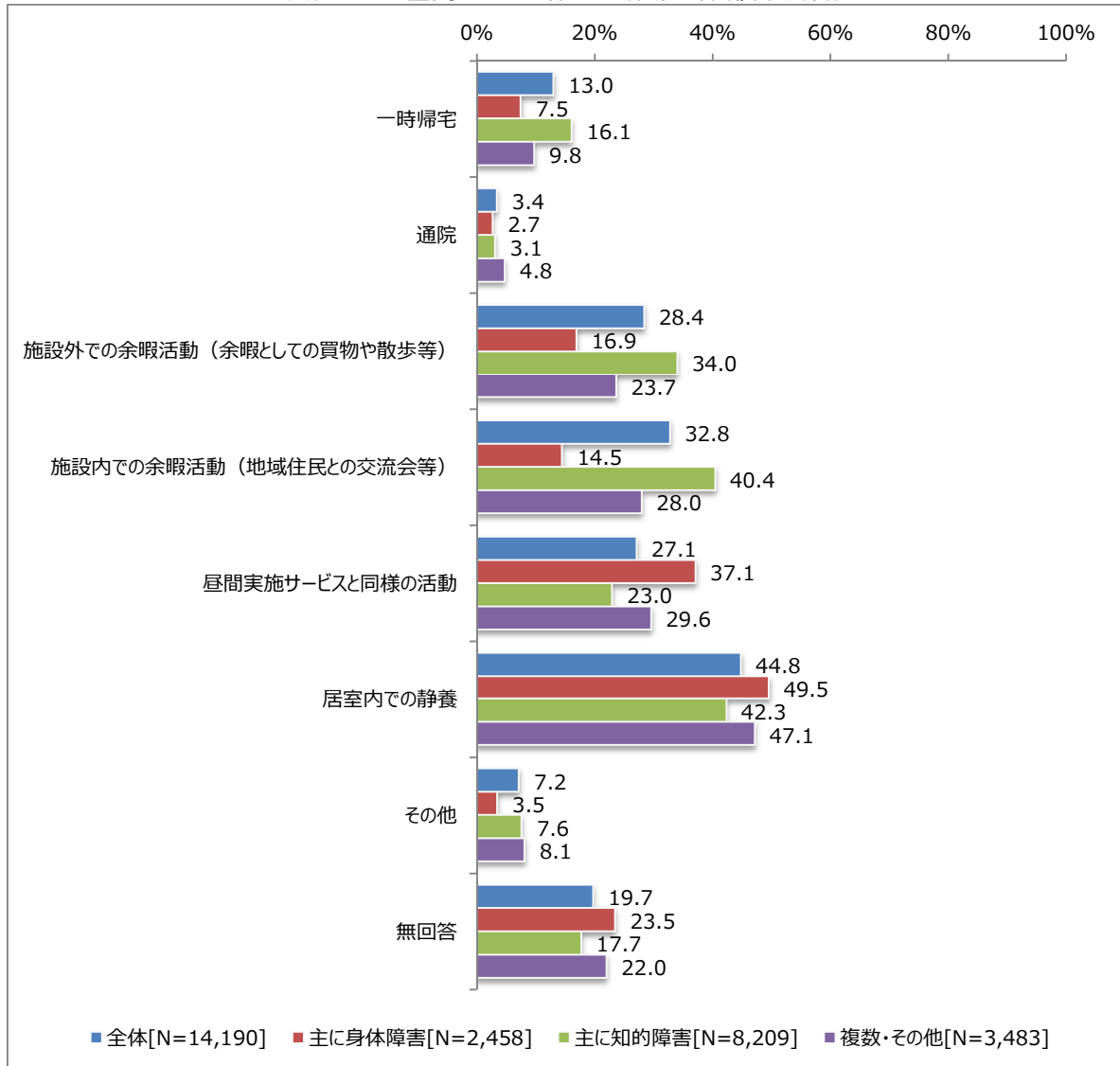
図表 385 自施設以外のサービス利用理由〔複数回答〕



⑨ 昼間サービス休日の活動内容

昼間サービスが休日の場合の、昼間の活動内容を聞いたところ、施設区分全体では、「居室内での静養」が44.8%と多くなっており、次いで、「施設内での余暇活動（地域住民との交流会等）」が32.8%、「施設外での余暇活動（余暇としての買物や散歩等）」が28.4%、「昼間実施サービスと同様の活動」が27.1%となっている。

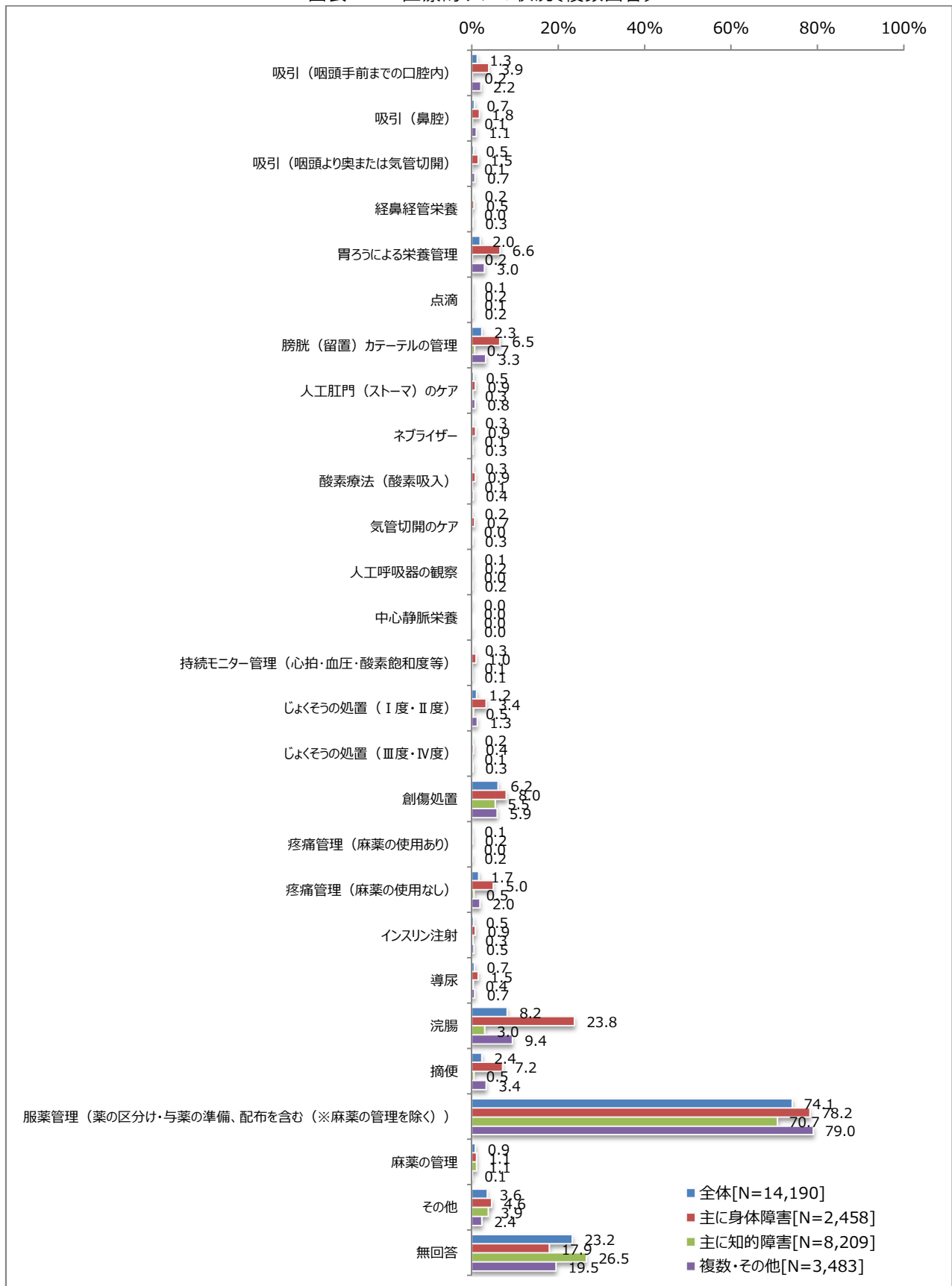
図表 386 昼間サービス休日の活動内容〔複数回答〕



⑩医療的ケアの状況

入所者の医療的ケアについては、施設区分全体では、「服薬管理（薬の区分け・与薬の準備、配布を含む（※麻薬の管理を除く））」が74.1%となっている。

図表 387 医療的ケアの状況〔複数回答〕



入所者の医療的ケアの状況について、回答実人数は次のようになっている。施設区分全体では、「服薬管理（薬の区分け・与薬の準備、配布を含む（※麻薬の管理を除く））」が10,512人である。

図表 388 医療的ケアの状況〔複数回答〕(回答実人数)

(人)	全体	主に身体障害	主に知的障害	複数・その他
合計	14,190	2,458	8,209	3,483
吸引（咽頭手前までの口腔内）	186	97	14	75
吸引（鼻腔）	94	44	12	38
吸引（咽頭より奥または気管切開）	69	38	5	26
経鼻経管栄養	28	13	4	11
胃ろうによる栄養管理	281	162	15	104
点滴	20	5	7	8
膀胱（留置）カテーテルの管理	332	160	58	114
人工肛門（ストーマ）のケア	71	22	21	28
ネブライザー	44	23	9	12
酸素療法（酸素吸入）	48	21	12	15
気管切開のケア	26	17	0	9
人工呼吸器の観察	13	5	1	7
中心静脈栄養	1	0	0	1
持続モニター管理（心拍・血圧・酸素飽和度等）	40	25	10	5
じょくそうの処置（Ⅰ度・Ⅱ度）	165	83	37	45
じょくそうの処置（Ⅲ度・Ⅳ度）	29	11	6	12
創傷処置	873	197	450	206
疼痛管理（麻薬の使用あり）	12	6	0	6
疼痛管理（麻薬の使用なし）	235	123	44	68
インスリン注射	68	22	27	19
導尿	94	38	32	24
浣腸	1,166	584	250	329
摘便	339	176	44	118
服薬管理（薬の区分け・与薬の準備、配布を含む （※麻薬の管理を除く））	10,512	1,922	5,800	2,750
麻薬の管理	127	28	94	5
その他	514	114	318	82
無回答	3,298	441	2,177	680